YAMAHA

スノーモビル

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

RS Viking Professional

8GS-28199-J0

おねがい

ヤマハ商品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、商品の安全性に関する情報および商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を充分に発揮させるために、商品の取り扱いを充分ご存じの方も、この商品独自の装備、取り扱いがありますので、ご使用される前には必ず本書を最後までよくお読みください。また、ご使用時には携帯して、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

- 本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ **安全にかかわる注意情報を示してあります。**

⚠警 告 **取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**

注 意 **取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**

要　点 正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

この車はレース仕様車ではありません。
したがってレースにご使用されますと、保証対象外になることがあります。

- 仕様変更などにより、本書の写真や内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書は大切に保管し、本機の転売や譲渡をされる場合は必ず添付してください。
- 将来、廃棄される場合およびバッテリ、廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。
- 保証書はよくお読みいただき裏面の販売店名・捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早目にお買い上げのヤマハ販売店にご相談またはお申しつけください。
ヤマハ販売店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

目次

重要ラベル 4
⚠安全にご使用するにあたって 6
●運転の前に 6
●始動の前に 6
●運転中は 6
●風通しの悪い場所でエンジンを始動しない 7
●ヤマハ純正部品 7
●保守と保管 7
各部の名称 8
コントロール機能（各部の機能） 10
●メインスイッチ 10
●スタータ（チョーク）レバー 10
●スロットルレバー 11
●スロットルオーバーライドシステム（T.O.R.S.） 11
●スピードメータユニット 12
●ハイビームインジケータ 12
●クーラント温度低下インジケータ 13
●燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータ 13
●フューエルレベル警告灯 15
●オイルレベル警告灯 15
●クーラント温度警告灯 16
●自己診断装置 16
●エンジン停止スイッチ 17
●ヘッドライトビームスイッチ 17
●グリップ/サムウォーマ調整スイッチ 17
●DCジャック 18
●ブレーキレバー 19
●パーキングブレーキレバー 19
●シフトレバー 20
●シュラウドラッチ 20
●ドライブガード 20
●Vベルトホルダ 21
●キャブレタクーラントシャットオフレバー 21
●ルーバー 22
●パッセンジャグリップウォーマースイッチ 22
●収納エリア 23
●けん引用連結装置のブラケット 25
●燃料 26
●サスペンション 27
使用前の点検 30
●使用前の点検リスト 30
操作方法 32
●エンジンの始動 32
●慣らし運転 33
●スノーモビルに乗る 34
●ドライブトラックを長持ちさせるには 39
●ストラップ 39
●走行 40

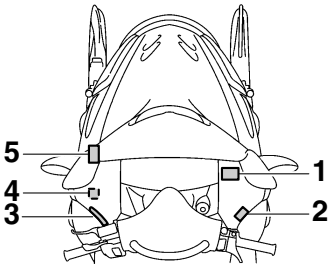
●エンジン停止 41
●輸送 41
定期点検 42
●排ガス制御装置の定期点検
チャート 42
●一般的な点検と潤滑チャート 43
●ツールキット 45
●スパークプラグの点検 45
●エンジンのアイドリング回転数の
調整 46
●スロットルケーブルの遊びの調整 47
●スロットルオーバーライドシステム
（T.O.R.S.）の点検 47
●エアフィルタの点検 48
●キャブレタ 49
●標高の高い場所で走行する場合の
設定 49
●バルブクリアランス 49
●エンジンオイルと
オイルフィルタカートリッジ 50
●冷却システム 55
●Vベルト 57
●ドライブチェーンハウジング 60
●ブレーキ、パーキングブレーキ 61
●スキー、スキーランナー 64
●ステアリング系 65
●ドライブトラック、
スライドランナー 66
●給脂 69
●ヘッドライトバルブの交換 70
●ヘッドライトビームの調整 71
●取付金具、ボルト類 72
●バッテリ 72
●ヒューズの交換 73
トラブルシューティング 76
保管方法 80
仕様諸元 82
お客様ご相談窓口のご案内 84
識別番号の記録 86
保証 87
索引（さくいん）..... 88

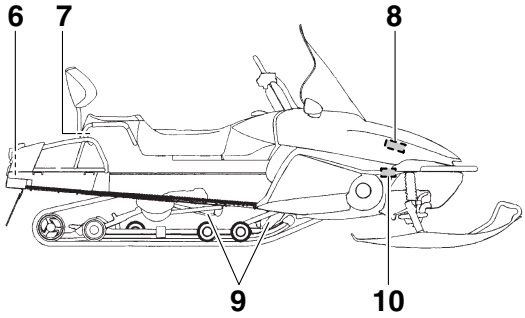
重要ラベル

スノーモビルを運転する前に以下のラベルをよくお読みください。

要　点

重要ラベルは、外さないようにし必要に応じて新しいものと交換してください。





1

⚠警　告

ハンドルストラップの取り扱いを誤ると事故になるおそれがあります。

- 斜面走行中、山側に体重移動させてバランスを保つときのみにハンドルストラップを使用して下さい。
- ハンドルストラップの使用時は片方の手でハンドルを保持して下さい。
  また、走行中は急に車速や進行方向を変更しないで下さい。
- ハンドルストラップを使っての急斜面走行は熟達した人のみが行って下さい。

8FN-77761-J0

2

DUAL RANGE

シフトレバーの操作方法について

- 車体が完全に止まった状態で、ブレーキレバーを握ってから操作して下さい。
- スロットルレバーを完全に戻し、エンジンがアイドリング回転の状態で操作して下さい。
- シフトレバーを手前に引き、回転させて操作して下さい。
- Dは前進通常走行時のレバー位置です。
- Rは後進です。
- Lは前進で主にけん引、積載走行時に使用します。
- Lでは80km／H以上で走行しないで下さい。

8GS-77763-J0

3

⚠警　告

8BY-J0

安全な運転のために次の事項を必ずお守り下さい。

- ●運転前に“取扱説明書”および全ての“ラベル”を良く読み、熟知してからご使用下さい。
- ●運転はスノーモビル運転に熟達した人の指導のもとで行って下さい。
- ●この車は一般道路は走行出来ません。（オフロード車）
- ●エンジン始動前にスロットルレバー、ブレーキレバー、ハンドル等が正常に作動することを確認して下さい。
- ●“パーキングブレーキ”をロックしてからエンジンを始動して下さい。また、走行前にはロックを解除して下さい。
- ●緊急時のエンジン停止は“エンジンストップスイッチ”を押して下さい。
- ●“ドライブガード”や“Vベルト”を外したままでエンジンを始動しないで下さい。
- ●燃料給油はエンジンを停止してから行い、給油後は“タンクキャップ”を確実に閉めて下さい。
- ●“ヘルメット”“ゴーグル”“手袋”“防寒具”等を装着して運転して下さい。
- ●運転前にシフトレバーの位置（前進又は後進）を確認して下さい。

4

⚠ 警　告

このドライブガード及びVベルトをはずしたままで、エンジンを始動しないで下さい。

8BD-77762-21

5

注　意

- スクリーンにアルカリ性及び酸性のクリーナー、ガソリン、ブレーキ液等が付着するとヒビ割れ等の原因になります。
- 清掃は中性洗剤で行ってください。

4B5-2815K-20

6

積載の制限

20kg

4KN-24877-C0

7

積載の制限

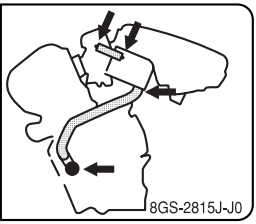
5kg

3AC-24877-C0

8

注　意

エンジンオイル流出によるエンジンの破損が発生するおそれがありますので、ブリーザーホースは、確実に取り付けしてください。
バッテリーの脱着等により、インテークサイレンサーを脱着した際は、サービスマニュアルに従って、ブリーザーホースとクランプの組み付けを確認してください。



8GS-2815J-J0

9

⚠ 警　告

高圧窒素ガス入りです。
取扱いを誤ると爆発する恐れがあります。
- 取扱説明書をよく読んでください。
- 火中への投入、穴あけ、分解はしないでください。

4AA-22259-50

10

8FA-J0

ブースターケーブル
接続用リード線

- 使用方法は取扱説明書を参照下さい。

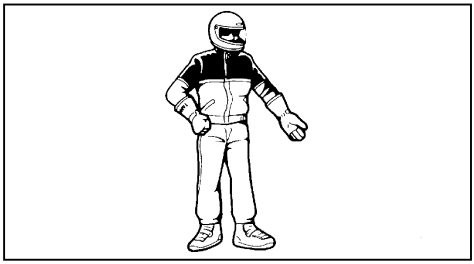
⚠安全にご使用するにあたって

スノーモビルに乗る時は、安全のため次の事項をよく理解し活用してください。
これら事項が守られなかった場合、死亡または重傷に至る恐れがあります。

運転の前に

- スノーモビルを運転する前に取扱説明書とラベル全部を読んでください。運転に関係するコントロール部位やその機能をすべて充分に理解してください。コントロール方法や機能について不明な点があれば、ヤマハ販売店にご相談ください。

- 体を保護する衣類を着用してください。ヘルメットはPSC, SGまたはJISマークのあるものを着用してください。フェイスシールドまたはゴーグルを着用してください。スノーモビル用スーツ、ブーツ、手袋（指でコントロール類の操作ができるもの）を着用してください。



- アルコール類や薬を飲んで運転しないでください。アルコールや薬は運転者の運転能力を低下させます。

始動の前に

- 安全のため、またスノーモビルの適切な手入れのため、エンジンを始動する場合は必ず30ページに記載された使用前の点検をおこなってください。エンジン始動のたびにスロットル、ブレーキ、ハンドルの適切な作動を点検してください。スロットルレバーがスムーズに動き、放すと元の位置（完全にスロットルが閉じた状態のこと）に戻ることを確認してください。

- エンジンを始動する時はあらかじめパーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけたままスノーモビルを走らせないでください。もし走行させると、ブレーキディスクが加熱してブレーキの性能が低下する恐れがあります。

運転中は

- このスノーモビルは公道を走れるようには作られていません。公道の走行は法律で禁止されており、公道を走ると他の車両と衝突する恐れがあります。

- スノーモビルの走行は慎重におこなってください。雪の下には障害物が隠れていることがあります。スキーの跡をたどって走行すれば危険を最小限にとどめることができます。スキーの跡から外れる時はゆっくり注意して走行してください。岩や切り株にぶつかったりワイヤーに引っかかったりすると事故や負傷のもとになります。

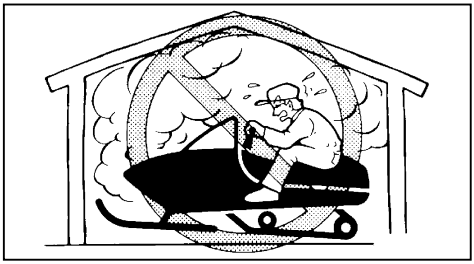
- このスノーモビルは雪または氷の表面以外を走るようには設計されていません。泥、砂、草、岩、雪のない路面の上を走行すると制御不能となり、あるいはスノーモビルを傷つけることがあります。

- 走行する時は必ず他のスノーモビルと一緒に行動してください。燃料不足、事故、故障時に、助けが必要になるからです。

- 氷や圧雪など、多くの雪面では停止距離がはるかに長くなります。注意を怠らず、先を見通して、早めに減速してください。ほとんどの表面で最良のブレーキのかけ方は、スロットルを放し、ブレーキを徐々にかけることです（急にかけてはいけません）。

風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。
  スノーモビルを建物に出し入れする時を除き、屋内ではエンジンをかけないでください。
  屋内でエンジンをかける時は戸外に通じるドアを開いてください。



また、排気ガスが窓やドアから屋内に入りこんでしまうような場所でもエンジンを始動しないでください。

ヤマハ純正部品

スノーモビルの部品を選ぶのは重要な決定です。ヤマハ純正部品はあなたのスノーモビルの為にデザイン、テストの上で認定され、ヤマハ販売店からのみ入手可能となっています。ヤマハと全く関係のない他社でパーツやアクセサリーを販売したり、ヤマハ車の改造を提供している事がありますが、ヤマハはこれら市場に出ている部品をテストする立場にはいません。したがってたとえそれがヤマハ販売店によって売られ、改造されたとしても、ヤマハで売られていない部品、または推奨されていない改造である場合はお勧めすることはできません。

保守と保管

- 点検整備時にスノーモビルを横にする際は、あらかじめ適切なスタンドでスノーモビルをしっかりと支えてください。

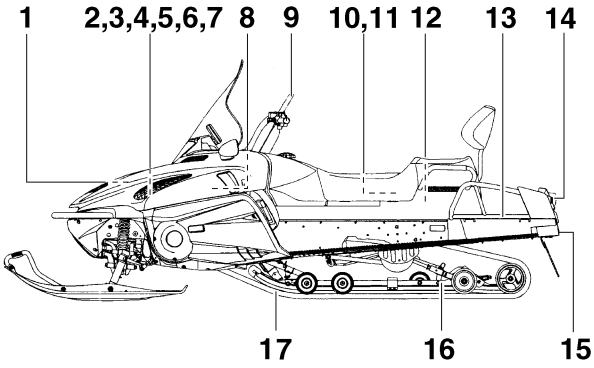
- スノーモビルを長期間保管する場合は、左側を下にして置かないでください。燃料ブリーザーホースから燃料が漏れることがあります。

- スノーモビルを始動、点検あるいは調整する時は、後ろに人が誰もいないことを確認してください。破損したトラックやトラック固定具、あるいはトラックがはね上げた小石などが、運転者や同乗者に危険を及ぼす恐れがあります。

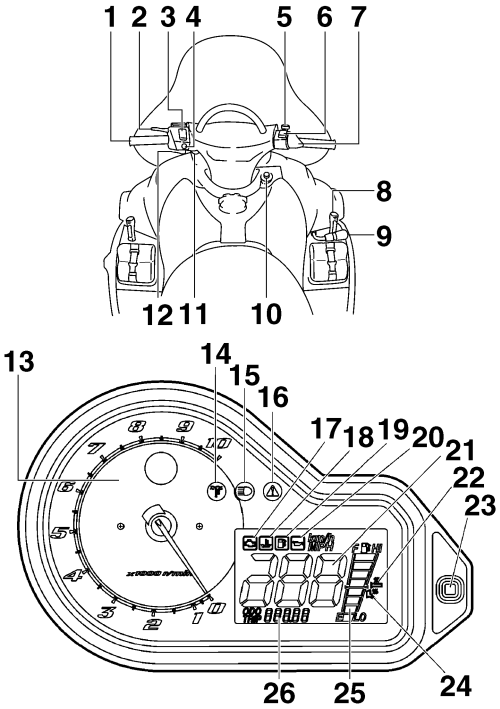
- ヤマハの承認なしにスノーモビルを改造し、あるいは純正装備品を取り外した場合、スノーモビルを安全に使用することができなくなり、乗員が重傷を負う恐れがあります。また改造したスノーモビルの使用は法律違反になります。

- 給湯器やヒータ、火気、火花、衣類乾燥機など、発火源がある建物内では、決して燃料タンクに燃料を入れたままスノーモビルを保管しないでください。閉鎖空間にスノーモビルを保管する場合は、エンジンが冷えてからにしてください。

各部の名称



1. エアフィルタ
2. バッテリ
3. クーラントリザーバ
4. ヒューズボックス
5. スロットルストップスクリュ
6. メインヒューズ
7. オイルフィラーキャップ
8. Vベルトホルダ
9. ストラップ
10. 収納用コンパートメント
11. ツールキット
12. パッセンジャグリップウォーマースイッチ
13. リヤキャリア
14. テール/ブレーキライト
15. けん引用連結装置のブラケット
16. スライドレールサスペンション
17. ドライブトラック



1. ブレーキレバー
2. パーキングブレーキレバー
3. グリップウォーマー調整スイッチ
4. ヘッドライトビームスイッチ
5. エンジン停止スイッチ
6. サムウォーマー調整スイッチ
7. スロットルレバー
8. シュラウドラッチ
9. シフトレバー
10. メインスイッチ
11. DCジャック
12. スターター（チョーク）レバー
13. タコメータ
14. クーラント温度低下インジケータ
15. ハイビームインジケータ
16. 警告灯
17. 自己診断警告灯
18. クーラント温度警告灯
19. フューエルレベル警告灯
20. オイルレベル警告灯
21. スピードメータ
22. グリップウォーマーインジケータ
23. セレクト/リセットボタン
24. サムウォーマーインジケータ
25. 燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータ
26. オドメータ/トリップメータ

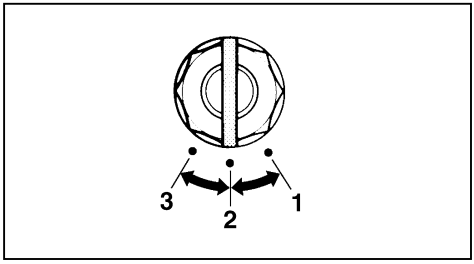
要　点

- お買い上げ頂いたスノーモビルは、当マニュアルの図に示すものと細部が異なっている可能性があります。
- スノーモビルの設計内容や仕様は、予告なく変更される場合があります。

コントロール機能（各部の機能）

メインスイッチ

メインスイッチは、点火系と灯火装置の制御を行います。メインスイッチの切替え位置は、以下の3つです。



1. Off（オフ）位置
2. On（オン）位置
3. Start（始動）位置

Off（オフ）位置
点火回路をオフにします。
キーはこの位置でのみ抜くことができます。
On（オン）位置
点火回路をオンにします。
Start（始動）位置
始動回路をオンにします。
スタータモータでエンジンが始動されます。

注 意

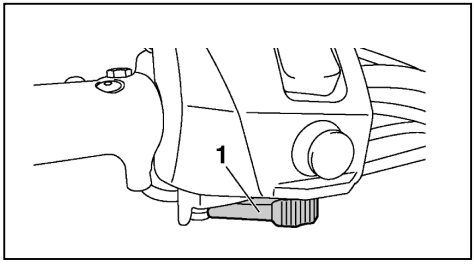
エンジンが始動したらすぐに、メインスイッチから手を離してください。

要　点

エンジンが始動するとヘッドライト、メーターライト、テールライトが点灯します。

スタータ（チョーク）レバー

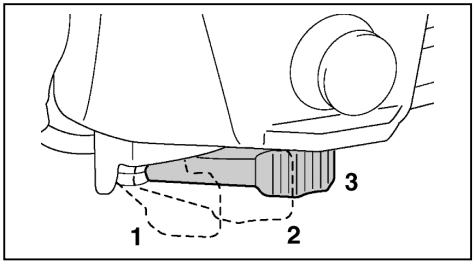
スタータ（チョーク）レバーは、冷えているエンジンを始動して暖機運転する場合に使用します。



1. スタータ（チョーク）レバー

要　点

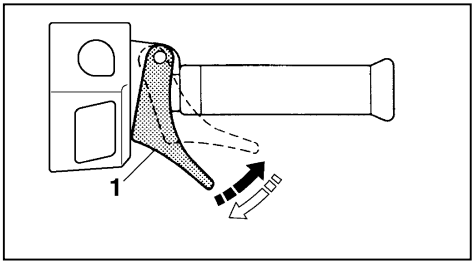
「エンジンの始動」の項に正しい操作方法が解説してあります。



1. 冷えているエンジンを始動する場合
2. 暖機運転の場合
3. エンジンが暖まっている場合

スロットルレバー

スロットルレバーを押すとエンジンの回転が上がり、駆動系につながります。スロットル位置を変えてスノーモビルの速度を制御します。スロットルレバーはスプリングの力で押されており、スロットルレバーを放すとスノーモビルは減速し、エンジンはアイドリング状態に戻ります。



1. スロットルレバー

スロットルオーバーライドシステム (T.O.R.S.)

⚠警 告

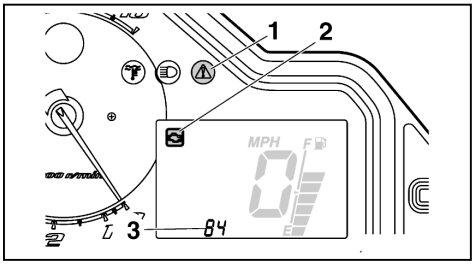
T.O.R.S.が起動した場合は、不具合の原因が解消されエンジンが正常に作動することを確認した後、再度エンジンを始動してください。

運転中にスロットルバルブまたはスロットルケーブルの機能不良が起こった場合、スロットルレバーを放した時にT.O.R.S.が作動します。
T.O.R.S.は、スロットルレバーを放してもスロットルバルブがアイドリング位置に戻らなかった場合に、点火を中断し、エンジンはクラッチが接続される回転数以下になるように設計されています。

	アイドリング時	走行時	トラブル時
スロットルレバー	離す	押す	離す
スロットルバルブ	閉じる	開く	開く
T.O.R.S.	エンジン正常運転	エンジン正常運転	T.O.R.S.作動

要 点

T.O.R.S.が起動すると、警告灯と自己診断警告灯が点滅し、“84”というエラーコードがメータのパネル内で点滅表示されます。エラーコードが表示されたときは、ヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けて下さい。



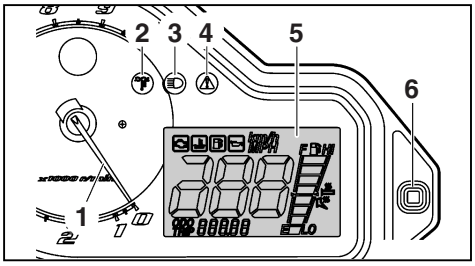
1. 警告灯
2. 自己診断警告灯
3. エラーコードが“84”を表示

スピードメータユニット

スピードメータユニットは、以下の状態を示します。

- デジタルスピードメータ
- タコメータ
- オドメータ
- トリップメータ（前回0kmに設定してから現在までに走行した距離を表示します）
- 各種警告灯（自己診断、クーラント温度、フューエルレベル、およびオイルレベルの各警告を表示します）
- インジケータ（ハイビームおよびクーラント温度低下の状態を示します）
- 警告灯（警告灯と共に、各警告を表示します）
- 燃料計（フューエルタンク内の燃料の残量を表示します）
- グリップ/サムウォーマーレベルインジケータ（グリップウォーマーレベルまたはサムウォーマーレベルを表示します）

エンジンを始動すると、タコメータの針が一度、最大値まで振れてから元に戻ります。またクーラント温度低下インジケータ、警告灯、およびメータの全セグメントライトが点灯してから消灯します。



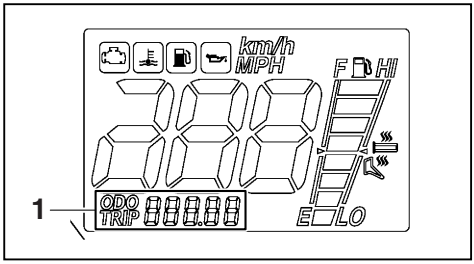
1. タコメータ
2. クーラント温度低下インジケータ
3. ハイビームインジケータ
4. 警告灯
5. メータ表示
6. セレクト/リセットボタン

グリップウォーマーレベルは最初に5秒間ほど表示した後、燃料計の表示に切り替わります。

オドメータとトリップメータのモード切替え

セレクト/リセットボタンを押す度に、オドメータモード（“ODO”）とトリップメータモード（“TRIP”）の表示が下記の順に切り替わります。

ODO→TRIP→ ODO

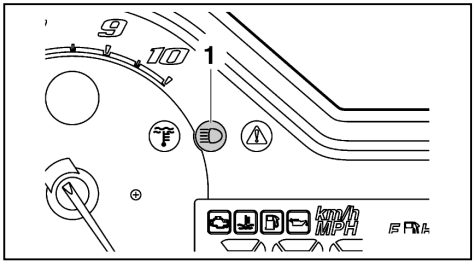


1. オドメータ／トリップメータ

トリップメータをリセットするには、トリップメータの表示時に、セレクト/リセットボタンを1秒間以上押し続けてください。

ハイビームインジケータ

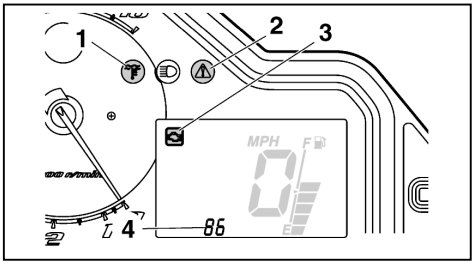
ハイビームインジケータは、ヘッドライトのハイビームをオンにした時に、点灯します。（ヘッドライトビームスイッチの詳細は、17ページを参照）



1. ハイビームインジケータ

クーラント温度低下インジケータ

クーラント温度低下インジケータはクーラントの温度が低下した時に点灯し、スノーモビルの暖機運転が必要なことをライダーに伝えます。エンジンを始動し、インジケータが消灯するまで暖機運転を続けてください。



1. クーラント温度低下インジケータ
2. 警告灯
3. 自己診断警告灯
4. エラーコードが“86”を表示

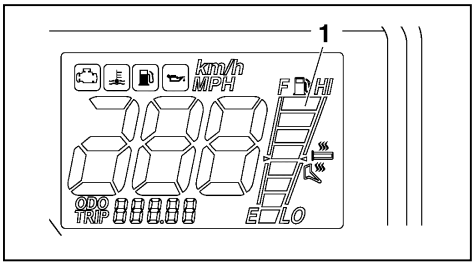
インジケータの消灯後、スノーモビルは正常に運転できます。

要　点

クーラント温度低下インジケータが点灯した時は、スノーモビルを低速で運転してください。エンジンスピードが高すぎると、警告灯と自己診断警告灯が点滅し、“86”というエラーコードがトリップメータ/オドメータのパネル内で点滅表示されます。その場合は、エンジンを保護するためにエンジンの最高速度が低くなります。

燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータ

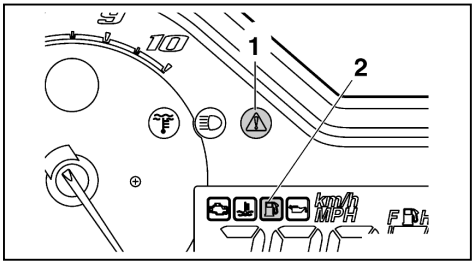
燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータには、フューエルタンク内の燃料の残量表示と、グリップウォーマーレベルまたはサムウォーマーレベルを表示する8セグメントのインジケータがそれぞれ内蔵されています。



1. 燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータ

燃料計

燃料計の表示セグメントは、ガソリン残量が低下するに従って“E”に向かって1つづつ消灯していきます。表示セグメントの点灯が“E”のそばで1つだけになった時、フューエルレベル警告灯と警告灯が点灯します。



1. 警告灯
2. フューエルレベル警告灯

フューエルレベル警告灯と警告灯が点灯した場合は、直ちに燃料を補給してください。

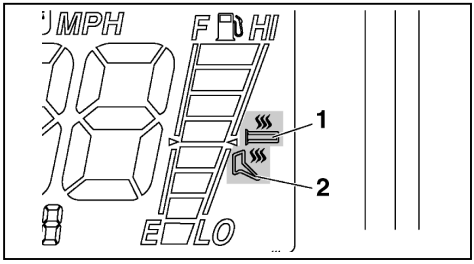
要　点

スノーモビルは移動したり傾斜させると燃料計の表示レベルが変化しますので、燃料計の正確な読取りを行うために、スノーモビルを水平な位置に停めてください。

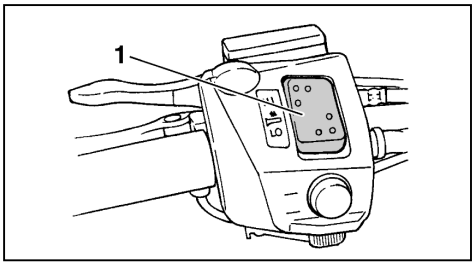
グリップ/サムウォーマーレベル インジケータ

グリップウォーマー調整スイッチを押すと、グリップウォーマーインジケータが点灯し、グリップウォーマーレベルの表示に切り替わります。

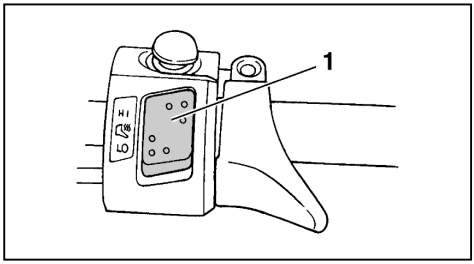
サムウォーマー調整スイッチを押すと、サムウォーマーインジケータが点灯して、サムウォーマーレベルの表示に切り替わります。



1. グリップウォーマーインジケータ
2. サムウォーマーインジケータ



1. グリップウォーマー調整スイッチ



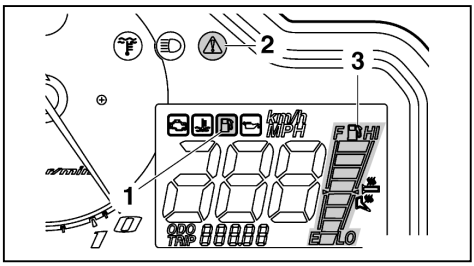
1. サムウォーマー調整スイッチ

要　点

- グリップ/サムウォーマー調整スイッチを離すと、グリップウォーマーレベルを5秒間ほど表示した後、燃料計の表示に切り替わります。
- エンジンを始動した時、グリップ/サムウォーマーレベルはエンジン停止時に選択したレベルに設定されます。

フューエルレベル警告灯

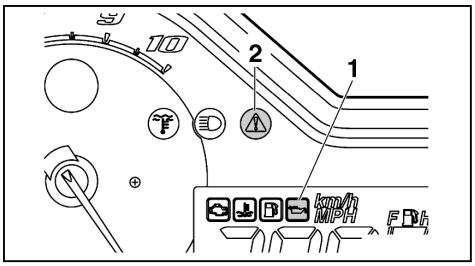
フューエルレベル警告灯は、スノーモビルの自己診断装置でセンサーの機能不良、カプラの接続不良、リード線の断線、またはショートが検出された時に点灯します。
フューエルレベル警告灯、警告灯、および燃料計の各セグメントは、点滅を続けてライダーに上記の警告を行います。
このような状態が起こったときは、直ちにヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けてください。



1. フューエルレベル警告灯
2. 警告灯
3. 燃料計

オイルレベル警告灯

オイルレベル警告灯と警告灯は、エンジンオイル量が低下した時に点灯します。

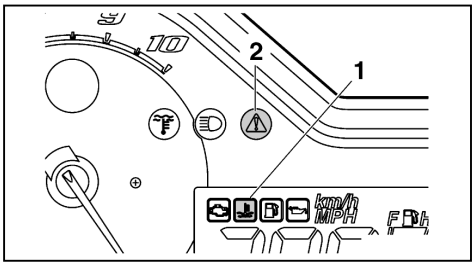


1. オイルレベル警告灯
2. 警告灯

オイルレベル警告灯と警告灯が点灯した場合は、スノーモビルを水平面に停止させ、1分間ほどアイドリング運転してください。
オイルレベル警告灯と警告灯が消灯した場合、エンジンオイルは足りていますが、量は低下しています。できるだけ早くエンジンオイルを補充してください。
オイルレベル警告灯と警告灯が消灯しない場合は、オイルタンク内のエンジンオイルレベルを確認し（エンジンオイルレベルの点検手順は50ページを参照）、必要に応じエンジンオイルを補充してください。

クーラント温度警告灯

エンジンがオーバーヒートした場合、クーラント温度警告灯と警告灯が点灯します。このような状態が起こった時は、直ちにエンジンを停止し、エンジンを冷却してから、クーラントリザーバ内のクーラントレベルを確認してください（クーラントレベルの点検方法は、55ページを参照）。



1. クーラント温度警告灯
2. 警告灯

注 意

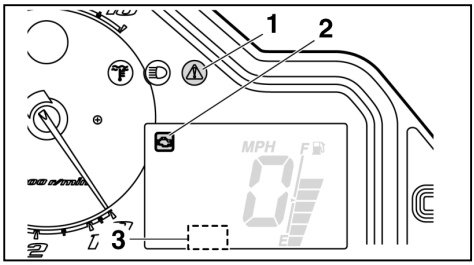
エンジンがオーバーヒートした場合は、運転しないでください。

自己診断装置

当モデルには、各種電気回路用の自己診断装置が搭載されています。
それらの回路のいずれかが故障した場合、警告灯と自己診断警告灯が点滅し、またトリップメータ/オドメータ表示内でエラーコードがゆっくり点滅します。
エラーコードを記録し、直ちにヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けてください。

注 意

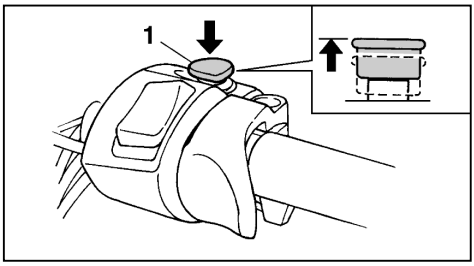
エラーコードが出た場合は、エンジンの損傷を避ける為に必要以上にエンジンを作動しないでください。



1. 警告灯
2. 自己診断警告灯
3. エラーコード表示

エンジン停止スイッチ

エンジン停止スイッチは緊急時にエンジンを停止させるために使用します。停止スイッチを押すだけで、エンジンは停止します。エンジンを始動するには、停止スイッチを引き戻してから、エンジンの始動手順を行ってください（エンジンの始動手順は、32ページを参照）。

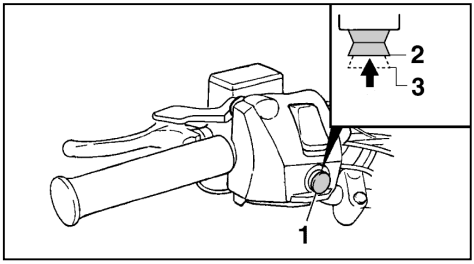


1. エンジン停止スイッチ

初めての走行時に、何回か停止スイッチを使って練習し、緊急時にもすばやく対応できるようにしてください。

ヘッドライトビームスイッチ

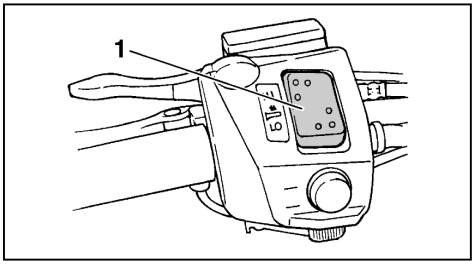
ヘッドライトビームスイッチを押す度に、ヘッドライトの“HI”（ハイ）と“LO”（ロー）が切り替わります。



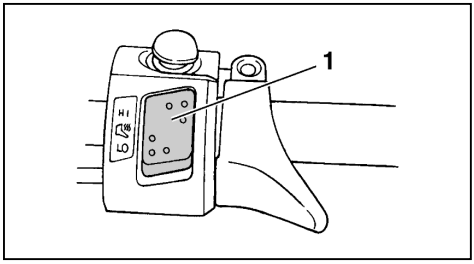
1. ヘッドライトビームスイッチ“LIGHTS”
2. ハイビーム“HI”
3. ロービーム“LO”

グリップ/サムウォーマー調整スイッチ

グリップ／サムウォーマー調整スイッチは、ハンドルバーグリップとスロットルレバーに内蔵されている電気ヒーターをそれぞれ制御します。



1. グリップウォーマー調整スイッチ



1. サムウォーマー調整スイッチ

温度を高くするには、それぞれのスイッチを押して“HI”（ハイ）位置にしてください。温度を下げるには、スイッチを押して“LO”（ロー）位置にしてください。

DCジャック

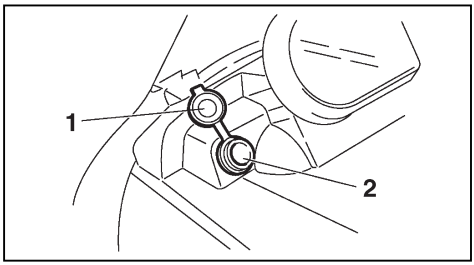
DCジャックは、フロントパネル内に設けられており、各種のアクセサリ用に使用できます。

要　点

DCジャックは、エンジンが回転していない時には使用できません。

DCジャックの使用手順

1. エンジンを始動します。
2. DCジャックキャップを開き、アクセサリの電源プラグをこのジャックに差し込みます。



1. DCジャックキャップ
2. DCジャック

3. DCジャックを使った後は、アクセサリの電源プラグをＤＣジャックから必ず抜いて、DCジャックキャップを閉じてください。

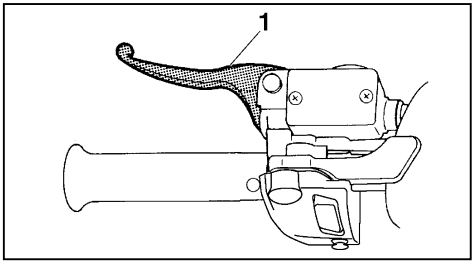
注 意

- **DCジャックの最大定格容量を超えるようなアクセサリは、接続しないでください。そのようなアクセサリを接続すると、回路が過負荷になりヒューズが切れる恐れがあります（指定アンペア数については、74ページを参照）。**
- **車用のシガーライターや他のアクセサリで、プラグ部分を加熱する方式のものは、ＤＣジャックに損傷を及ぼす恐れがありますので、使用しないでください。**

最大定格容量：
DC 12 V、2.5 A (30 W)

ブレーキレバー

スノーモビルの停止は、駆動系全体にブレーキをかけて行われます。
スノーモビルを停止させるには、ブレーキレバーをグリップ方向に引いてください。



1. ブレーキレバー

要　点

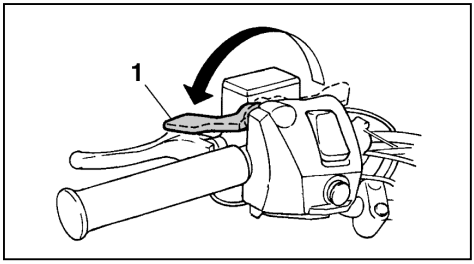
ブレーキレバーを操作するとブレーキライトが点灯します。

注 意

**ブレーキレバーの端はハンドルバーの端より外に突出させないでください。
そうすればスノーモビルを整備のため横位置にした場合もブレーキレバーを傷めません。**

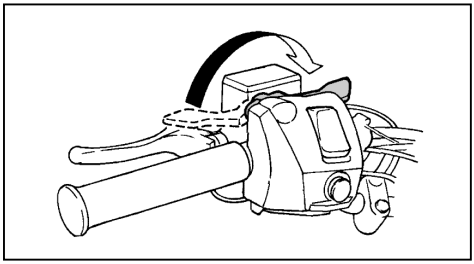
パーキングブレーキレバー

スノーモビルを駐車またはエンジンを始動する場合、パーキングブレーキレバーを左に倒してパーキングブレーキをかけてください。



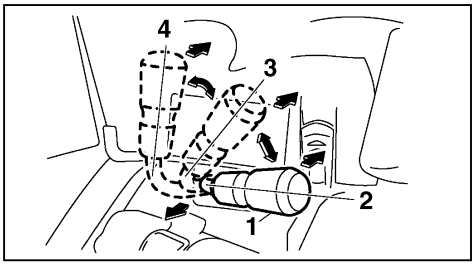
1. パーキングブレーキレバー

パーキングブレーキを解除するには、パーキングブレーキレバーを右に倒してください。



シフトレバー

シフトレバーは、スノーモビルの前進、後退、および低速走行の切替えに使用します。スノーモビルが完全に停止してから、シフトレバーを（“D”、“R”、または“L”位置に）シフトし、手を離してください。



1. シフトレバー
2. “D”走行（前進）
3. “R”後退
4. “L”低速走行（前進）

要　点

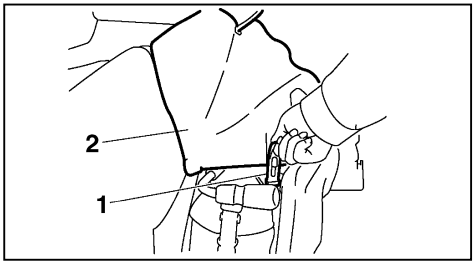
シフトレバーはそれぞれのポジションに確実にシフトしてください。

注 意

スノーモビルが動いている時は、シフトレバーを前進から後退に、または後退から前進にシフトしないでください。そのようなシフトを行うと、駆動系が損傷する恐れがあります。

シュラウドラッチ

シュラウドを開くには、シュラウドラッチのフックを外し、シュラウドをゆっくりと、停止位置まで完全に持ち上げてください。シュラウドを閉じるには、シュラウドをゆっくりと元の位置まで下げて、シュラウドラッチのフックを掛けてください。



1. シュラウドラッチ
2. シュラウド

注 意

シュラウドを閉じる時は、すべてのケーブルとワイヤーを確実に元の位置に戻してください。

ドライブガード

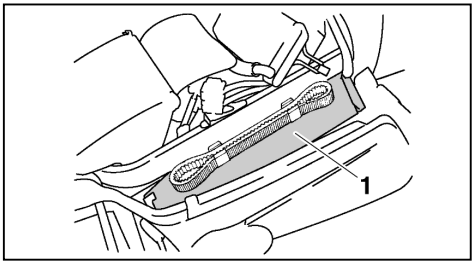
⚠警 告

- **回転しているVベルトやクラッチに接触した場合、負傷または重傷を負う可能性があります。ドライブガードを外した状態でエンジンを作動しないでください。**
- **スノーモビルを運転する時は、破断したVベルトや他の外れた部品によって、負傷または重傷を負うことがないように、あらかじめドライブガードがしっかりと固定されていることを確認してください。**

注 意

Vベルトを外した状態で、決してエンジンを作動しないでください。クラッチが損傷する可能性があります。

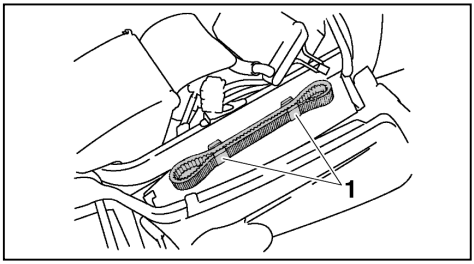
ドライブガードは、部品の破断や緩みに備え、VベルトクラッチやVベルトをカバーするように設計されています。



1. ドライブガード

Vベルトホルダ

予備のVベルトを緊急時のために用意し、Vベルトホルダにしまっておいてください。



1. Vベルトホルダ

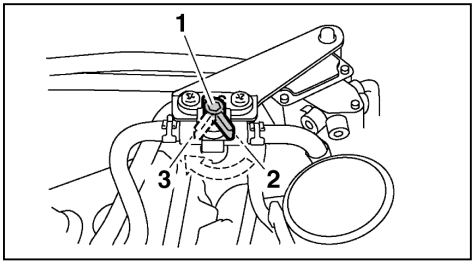
注 意

Vベルトはホルダにしっかりと固定してください。

キャブレタクーラントシャットオフレバー

キャブレタクーラントシャットオフレバーは、キャブレタに流れるクーラントの流量を制御します。

周囲の温度が0℃以下の時は、クーラントの流れを保ち、またキャブレタを暖めるために、キャブレタクーラントシャットオフレバーを必ず“ON”（開）位置にしてください。



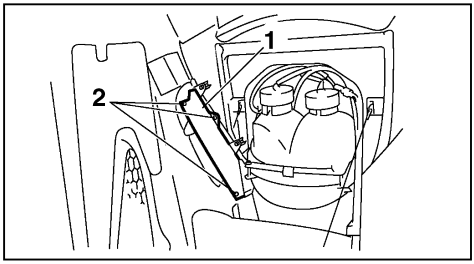
1. キャブレタクーラントシャットオフレバー
2. “ON”（開）位置
3. “OFF”（閉）位置

注 意

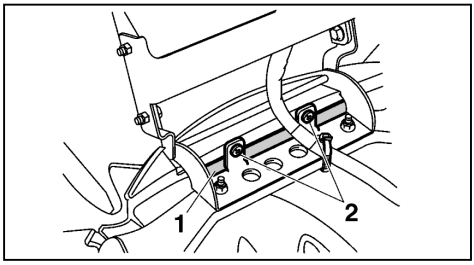
温度が0℃以上でスノーモビルを運転する時は、キャブレタを暖める必要がないため、キャブレタクーラントシャットオフレバーを“OFF”（閉）位置にしてクーラントの流れを止めてください。

ルーバー

このスノーモビルには、換気用のルーバーがシュラウドと下部フロントカバー内に設けられています。
左上のルーバーと下部の前側ルーバーには、走行条件に応じて取り付けや取り外しが可能なプレートが付いています。
周囲の温度が5℃以上の地域でスノーモビルを運転する時は、スクリュを外してプレートを取り外すことができます。プレートを取り外す前に、ヤマハ販売店にご相談ください。



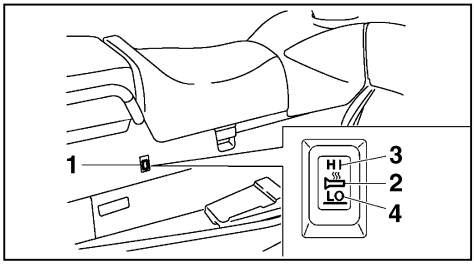
1. プレート
2. スクリュ



1. プレート
2. スクリュ

パッセンジャグリップウォーマースイッチ

パッセンジャグリップウォーマースイッチは、電気加熱式のパッセンジャグリップのヒーターを制御します。



1. パッセンジャグリップウォーマースイッチ
2. Off
3. “HI”（高温）
4. “LO”（低温）

収納エリア

このスノーモビルには、収納用コンパートメント、収納用ポーチ、リヤ収納エリア、およびリヤキャリアが装備されています。

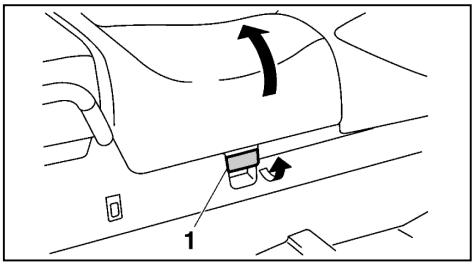
収納用コンパートメント

収納用コンパートメントは、ライダーシートの下側に設けられています。

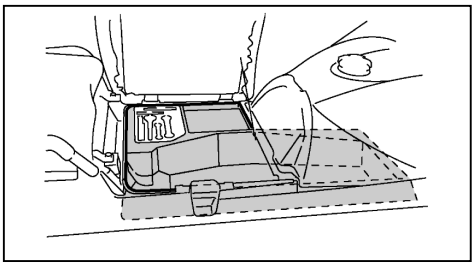
収納用コンパートメントは、ツールキット、スペアパーツ、その他の小物の収納に使用してください。収納用コンパートメントはフューエルタンクの下側にも広がっているため、工具などの長尺物の収納にも使用できます。

ライダーシートを開くには、シートラッチを引き、シートが止まる位置までゆっくり持ち上げてください。

シートを閉じるには、シートを元の位置までゆっくり降ろし、シートの右側を押し込んでロックさせてください。



1. シートラッチ



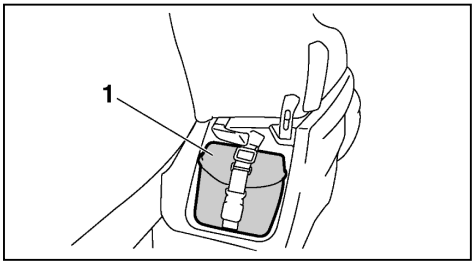
注 意

- **収納用コンパートメント内には鋭利なものを入れないでください。万一フューエルタンクが損傷すると、燃料が漏れる恐れがあります。**
- **スノーモビルの走行中または走行直後、収納用コンパートメントの底部が熱くなっている可能性があります。非常に高熱になった場合は、火傷する恐れがあります。さらに、収納用コンパートメント内の熱が（収納している）食品の品質に影響したり、プラスチック製品を変形/変色させる恐れがあります。**

収納用ポーチ

ライダーの左右のフットレストの上側に、収納用ポーチが設けられています。

収納用ポーチは、スペアパーツやその他の小物の収納に使用してください。



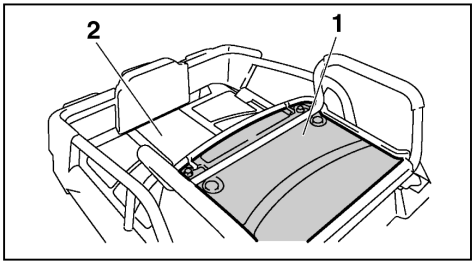
1. 収納用ポーチ

最大荷重：0.3 kg

リヤ収納エリアとリヤキャリア

スノーモビルの後部には、リヤ収納エリアとリヤキャリアが設けられています。

リヤ収納エリアはパッセンジャーシートの下側にあり、パッセンジャーシートとバックレストを取り外した場合にのみ使用できます。



1. リヤ収納エリア
2. リヤキャリア

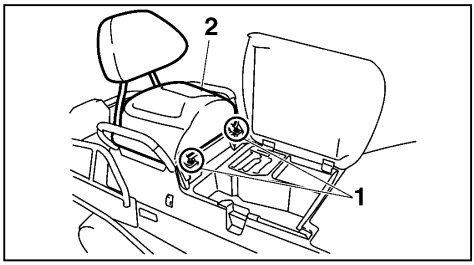
最大荷重：
リヤ収納エリア：5 kg
リヤキャリア：20 kg

⚠ 警 告

スノーモビルを持ち上げる時に、リヤキャリアを利用しないでください。スノーモビルが落下して、そばに立つ人が負傷する危険があります。

パッセンジャーシートとバックレストの取り外し方

1. ライダーシートを開きます（詳細は「収納用コンパートメント」の項を参照）。
2. パッセンジャーシートボルトを外し、パッセンジャーシートとバックレストを後方に少しスライドします。その後、真上に持ち上げて、取り外します。



1. パッセンジャーシートボルト
2. パッセンジャーシートとバックレスト

3. パッセンジャーシートボルトを付け、規定トルクで締め付けます。

注 意

リヤ収納エリアを使用する時は、積載物の重量が規定以上にならないように注意してください。また、積載物がリヤ収納エリアの縁からはみ出さないようにしてください。

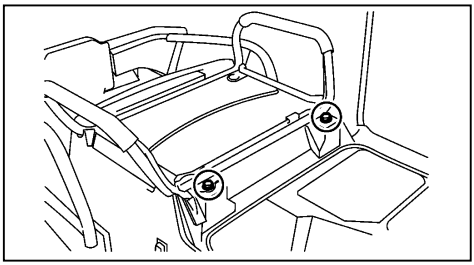
パッセンジャーシートボルトの
締め付けトルク：
47.5 Nm (4.75 kgf · m)

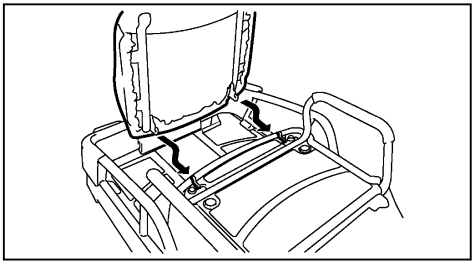
パッセンジャーシートとバックレストの取り付け方

1. ライダーシートを開きます（詳細は「収納用コンパートメント」の項を参照）。
2. パッセンジャーシートボルトを外し、パッセンジャーシートとバックレストの底部のフックをリヤ収納エリアの溝に差し込みます。その後、パッセンジャーシートとバックレストを前側にスライドします。

注 意

パッセンジャーシートとバックレストを取り付ける時に、ワイヤーハーネスを挟み込まないようにしてください。





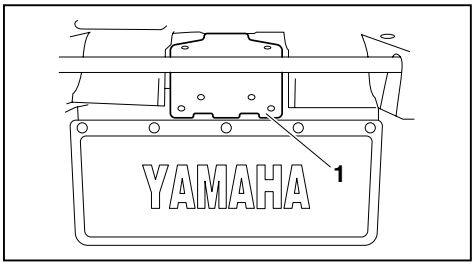
3. パッセンジャーシートボルトを付け、規定トルクで締め付けます。

けん引用連結装置のブラケット

注 意

Vベルトの摩耗をできるだけ防ぐために、長期にわたってけん引する時は、10km/h未満の走行を避けるようにしてください。

このスノーモビルには、けん引用連結装置を取り付けて使用する為のけん引用連結装置のブラケットが装備されています。
けん引用連結装置のブラケットを使用する場合は、既定された重量制限を守って使用してください。



1. けん引用連結装置のブラケット

要 点

けん引用連結装置は、スノーモビルに同梱されていません。別でお買い求めください。

最大けん引荷重：120kg
縦方向の荷重制限：15 kg

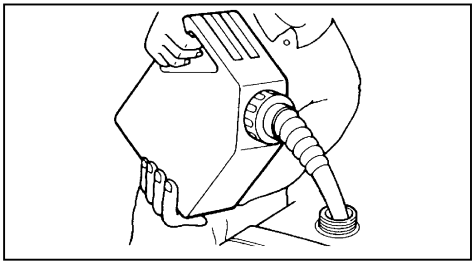
燃料

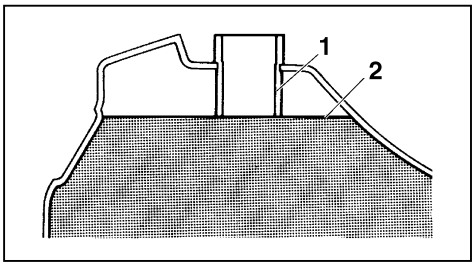
⚠警 告

ガソリンおよびそれが気化した蒸気は極めて引火性が高く、爆発する恐れがあります。火災や爆発の危険を減らすために、常にこの手順に従って給油してください。

燃料タンクには燃料を充分に入れておいてください。

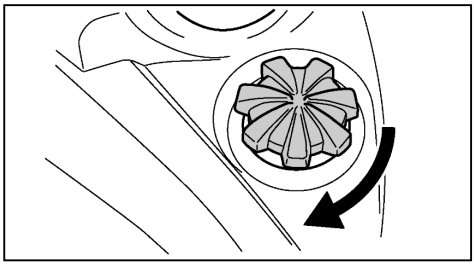
1. 給油の前は必ずエンジンを切り、スノーモビルに誰も乗っていない事を確認してください。喫煙しながらあるいは火花、火気または給湯器や衣類乾燥機等、発火元のある所では決して給油しないでください。
2. 燃料を入れすぎないようにしてください。液面が燃料タンクのフィラーチューブの底を越えないようにしてください。温度の上昇によって燃料は膨張する為、入れすぎた場合はエンジンや太陽からの熱で溢れることがあります。





1. フィラーチューブ
2. 燃料のレベル

3. こぼれたガソリンはすぐに拭き取ってください。
4. 燃料タンクキャップを時計回りにしっかりと閉めてください。



⚠警 告

ガソリンは毒性があり、傷害または死亡に至る恐れがあります。取り扱いには充分に注意を払ってください。口でガソリンを吸い上げることは決してしないでください。万一、ガソリンを飲み込んだり、または多量の揮発蒸気を吸ったり、または目に入ったりした場合、直ちに医師の診断を受けてください。万一、ガソリンが皮膚にこぼれた場合、石鹸と水で洗ってください。衣類に付着した場合は、着替えてください。

推奨燃料：
　無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量：
　40.0 L

注 意

- **給油時に、雪や氷が燃料タンクに入らないよう気をつけてください。**
- **燃料タンクには指定の無鉛レギュラーガソリンを給油してください。**

サスペンション

サスペンションはライダーの好みに応じて調整することができます。たとえば柔らかい設定にすると乗り心地がよくなり、固い設定にすると特定のタイプの地形や走行条件でハンドリングや制御がいっそう正確におこなえるようになります。
サスペンションの調整に慣れていない方は、ヤマハ販売店に調整を依頼してください。

⚠ 警 告

当ショックアブソーバには高圧の窒素ガスが封入されています。誤った使い方をすると、破裂して、負傷や物的な損害を引き起こす恐れがあります。

- **ショックアブソーバを開けたり、改造しないでください。**
- **ショックアブソーバを火中に投じたり、高温の熱源に近づけないでください。爆発する恐れがあります。**
- **ショックアブソーバを変形させたり、損傷を与えないようにしてください。**
- **摩耗したり損傷したショックアブソーバは、ユーザご自身で廃棄せず、ヤマハ販売店にお持ちください。**

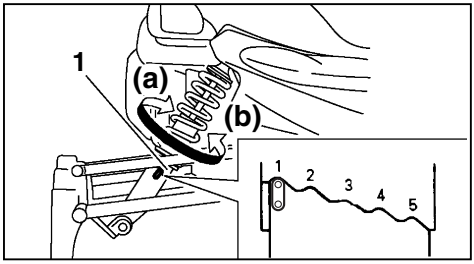
フロントサスペンションの調整

⚠ 警 告

左右のフロントサスペンションのスプリングプリロードは同一設定にしなければなりません。同一設定でなかった場合ハンドリング性能が低下し安定性が失われる恐れがあります。

スプリングプリロードは、スプリングプリロード調整リングを回して調整することができます。

サスペンションをハードにする場合は、スプリングプリロード調整リングを（a）方向に回してスプリングプリロードを増加させます。
サスペンションをソフトにする場合は、スプリングプリロード調整リングを（b）方向に回してスプリングプリロードを減少させます。



1. スプリングプリロード調整リング

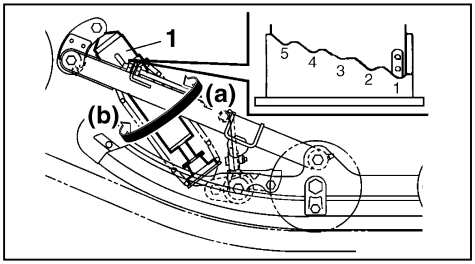
スプリングプリロードの設定：
最小位置（ソフト）：
1
標準位置：
1
最大位置（ハード）：
5

リヤサスペンションの調整

スプリングプリロードは、センターショックアブソーバのスプリングプリロード調整リングとリヤショックアブソーバのスプリングプリロード調整リングを回して調整することができます。

センターショックアブソーバ

サスペンションをハードにする場合は、スプリングプリロード調整リングを（a）方向に回してスプリングプリロードを増加させます。
サスペンションをソフトにする場合は、スプリングプリロード調整リングを（b）方向に回してスプリングプリロードを減少させます。

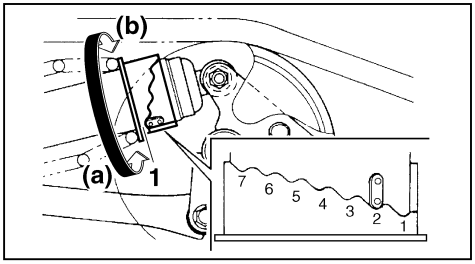


1.スプリングプリロード調整リング

スプリングプリロードの設定：
最小位置（ソフト）：
1
標準位置：
1
最大位置（ハード）：
5

リヤショックアブソーバ

サスペンションをハードにする場合は、スプリングプリロード調整リングを（a）方向に回してスプリングプリロードを増加させます。サスペンションをソフトにする場合は、スプリングプリロード調整リングを（b）方向に回してスプリングプリロードを減少させます。



1. スプリングプリロード調整リング

スプリングプリロードの設定：
最小位置（ソフト）：
1
標準位置：
2
最大位置（ハード）：
7

リヤサスペンションのフルレート調整

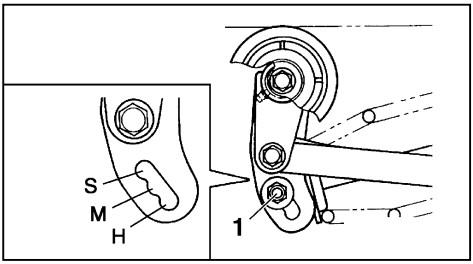
注 意

- **この調整は必ずスノーモビルに荷重（ライダーや貨物）を掛けずに行ってください。**
- **フルレート調整ボルトの両端は、左右同じ位置に調整してください。**

要　点

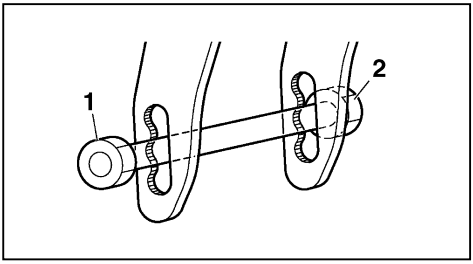
ナットを緩めたり、締め付けたりしている時は、フルレート調整ボルトを絶対に動かさないようにしてください。

1. フルレート調整ボルトが動かないようにレンチで固定し、ナットを1/2回転または3/4回転ほど緩めます。

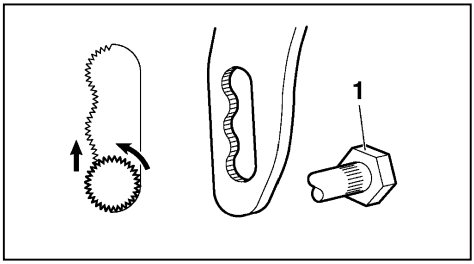


1. ナット

2. フルレート調整ボルトを目的位置まで回します。



1. ナット
2. フルレート調整ボルト



1. フルレート調整ボルト

スプリングレートとダンピングフォースの設定（フルレート調整ボルトの取り付け位置）:
最小位置（ソフト）:
S
標準位置：
S
最大位置（ハード）:
H

3. フルレート調整ボルトをしっかり保持しながら、ナットを締め付けます。

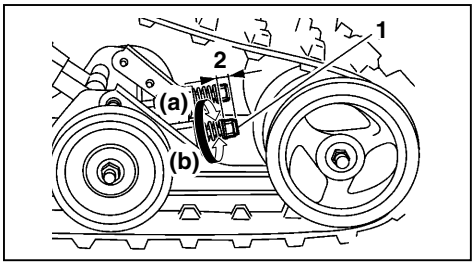
ナットの締め付けトルク：
49 m (4.9 kgf · m)

リヤサスペンションのエクステンションスプリングのプリロード調整

⚠ 警 告

左右のエクステンションのスプリングプリロードは、同一設定にしなければなりません。同一設定でなかった場合、ハンドリング性能が低下し安定性が失われる恐れがあります。

エクステンションのスプリングプリロードは、スプリングプリロード調整ナットを回して調整することができます。
サスペンションをハードにする場合は、スプリングプリロード調整ナットを（a）方向に回してスプリングプリロードを増加させます。
サスペンションをソフトにする場合は、スプリングプリロード調整ナットを（b）方向に回してスプリングプリロードを減少させます。



1. スプリングプリロード調整ナット
2. セット長A

要　点

スプリングプリロード設定値はイラストにあるセット長Aで決められます。セット長Aが長いほどスプリングプリロードは高くなります。セット長Aが短いほどスプリングプリロードは低くなります。

スプリングプリロードの設定：
最小位置（ソフト）:
16 mm
標準位置：
16 mm
最大位置（ハード）:
18 mm
* セット長は、スプリングプリロード調整ナットを1回転させると、約1.25mm変化します。

使用前の点検

スノーモビルを安全で快適に使用いただくため、使用前の点検を必ず行ってください。取扱説明書に書かれている点検整備方法と頻度に従ってください。

⚠警 告

使用前の点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。異常が認めたれたときは、使用しないでください。取扱説明書に書かれている方法で整備しても異常が直らない場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。

使用前の点検リスト

点検項目	点検内容
燃料	• 燃料の量を点検する。 • 必要に応じ給油する。 • 燃料系統の漏れの有無を点検する。
エンジンオイル	• エンジン内のオイルレベルを点検する。 • オイルレベルが低い場合は、推奨エンジンオイルを規定レベルまで補給する。 • エンジンオイルの漏れの有無を点検する。
クーラント	• クーラントレベルを点検する。 • 必要に応じクーラントを補給する。
Vベルト	• 摩耗、損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ、交換する。
ドライブガード	• ドライブガードが確実に固定されているか確認する。 • ドライブガードの取り付け部に損傷がないか点検する。
ブレーキ	• 作動を点検する。 • ブレーキの効きがソフトまたはスポンジを踏んだような感じの場合は、ヤマハ販売店に油圧系統のエア抜きを依頼する。 • ブレーキパッドの摩耗の有無を点検する。 • 必要に応じブレーキパッドを交換する。 • マスターシリンダ内のブレーキ液レベルを点検する。 • 必要に応じ推奨ブレーキ液を規定レベルまで補充する。 • 油圧系統の漏れの有無を点検する。
エアフィルタ	• エアフィルタエレメントの下側に残雪がないか、点検する。 • 残雪を取り除く。
ルーバー	• 状態を点検する。 • 残雪を取り除く。
ツールキットと推奨装備	• 適切な位置に収納されているか点検する。
シュラウドラッチ	• シュラウドラッチが固定されているか確認する。
スキー、スキーランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じヤマハ販売店でスキーまたはスキーランナーを交換する。

点検項目	点検内容
ドライブトラック	• たわみ量を点検する。 • 必要に応じ調整する。 • 摩耗および損傷の有無を点検する。 • 必要に応じヤマハ販売店でドライブトラックを交換する。
スライドランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じヤマハ販売店でスライドランナーを交換する。
ステアリング	• 過度の遊びがないか点検する。
ストラップ	• 損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。
ライト、シグナル、スイッチ類	• 作動を点検する。 • 必要に応じ修理/交換する。
スロットルレバー	• 作動がスムーズで、スロットルレバーから手を離すと、スプリングの力で元の位置に戻るか確認する。
スロットルオーバーライドシステム（T.O.R.S.）	• T.O.R.S.が適切に作動するか点検する。 • T.O.R.S.が作動不良の場合は、ヤマハ販売店でスノーモビルの点検をおこなう。

要　点

この車には、エンジンオーバーヒート防止装置が装備されており、エンジンのアイドリング回転時にオーバーヒートを防止します。エンジンのアイドリング回転が3分以上続き、クーラントの温度が100℃を超えた場合、オーバーヒートを防止するためにエンジンは自動的に停止します。エンジンの停止後、再び始動することが可能です。

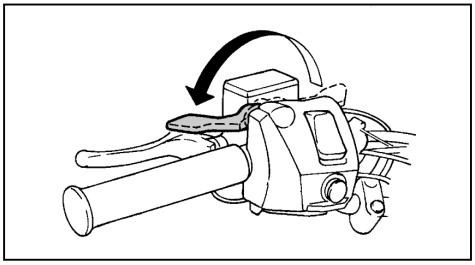
エンジンの始動

スノーモビルを運転する前に取扱説明書をよく読み、運転に関するコントロール部位やその機能を充分に理解してください。コントロール方法や機能について不明な点があればヤマハ販売店にご相談ください。

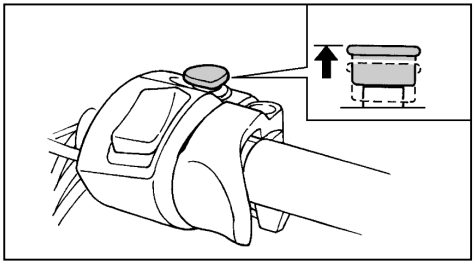
⚠警　告

コントロール方法について理解が不充分な場合、操縦を誤り、事故やケガをすることがあります。

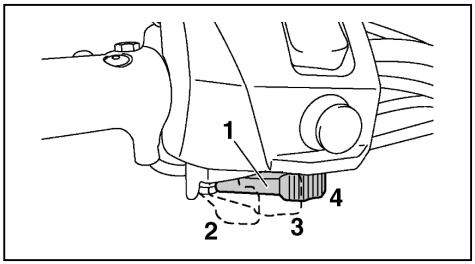
1. パーキングブレーキをかけます。



2. エンジン停止スイッチがオン位置にあることを確認してください。エンジン停止スイッチがオフ位置の時は、スタータモータを始動させることができません。



3. スタータ（チョーク）レバーを全開位置にします。



1. スタータ（チョーク）レバー
2. 全開位置（コールドスタート時）
3. 半開位置（暖機運転時）
4. 閉位置（ウォームスタート時）

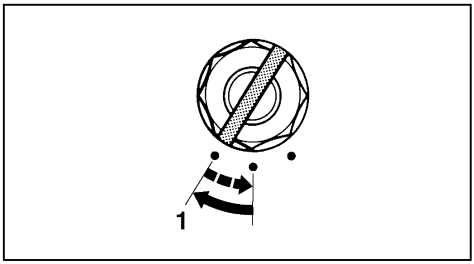
要　点

エンジンが暖まっている時は、スタータ（チョーク）レバーは操作不要です。スタータ（チョーク）レバーを閉位置にしてください。

4. メインスイッチをStart（始動）位置にします。

注 意

- **エンジンが始動したらすぐに、メインスイッチから手を離してください。**
- **エンジンが始動しなかったらメインスイッチから手を離し、数秒まって再度メインスイッチを入れてください。バッテリの消耗を防ぐため、メインスイッチを入れる時間はなるべく短くしてください。メインスイッチを入れてエンジンを回す時間は、1回につき10秒以内にしてください。**



1. Start（始動）位置

5. エンジンを暖め、エンジンがスムーズに作動し始めたら、チョークを閉めます。
6. 運転を始める前に、クーラント温度低下インジケータが消灯したのを確かめてください。(クーラント温度低下インジケータについては、13ページを参照してください)。

慣らし運転

積算走行距離が500kmまでの慣らし運転は、エンジンの寿命にとって重要です。このため、以下の説明に充分に目を通し、その指示に従ってください。

エンジンは新品の状態のため、最初の500kmまでは過度な負荷をかけないでください。エンジン内のさまざまなパーツが相互に摩耗と研磨を繰り返して、正しい作動すき間を保つようになります。この慣らし運転の期間は、フルスロットル操作を長く続けないようにし、またエンジンがオーバーヒートするような条件を避ける必要があります。

新しいスノーモビルを初めて運転する場合

エンジンを始動し、15分間ほどアイドリング運転してください。

0～160km間

6000rpm以上の回転を長時間続けないでください。

160～500km間

8000rpm以上の回転を長時間続けないでください。

500km以降

慣らし運転の期間が終わり、スノーモビルを普通に運転することができます。

注 意

- **800 km走行した時点で、エンジンオイルを交換し、オイルフィルタカートリッジを交換してください。**
- **エンジンの慣らし運転期間中にエンジンで何らかのトラブルが発生した場合は、直ちにヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けてください。**

スノーモビルに乗る

スノーモビルをよく知ろう

⚠警 告

- **運転者は常に両手でハンドルバーをにぎっていてください。**
- **フットレストの外に足を絶対に出さないでください。**
- **スノーモビルとそのコントロール類に充分習熟するまでは、高速走行をしないでください。**

スノーモビルはライダーが体でコントロールする乗り物で、ライディングポジションとバランスがスノーモビルを操縦する2大要素です。
スノーモビルに乗るには、長時間にわたる実践で技量を習得する必要があります。
高度なライディングを試す前に、基本的な技能を確実に習得してください。
新しくお求めになったスノーモビルを運転するのは楽しく、時間を忘れてしまうでしょう。しかし楽しく安全に乗るには充分な技量が必要で、その技量を身につけるにはスノーモビルの操作に習熟することが不可欠です。スノーモビルを運転する前に、まず「取扱説明書」を熟読し、コントロール類の操作をよく理解してください。
特に6ページ目に記載された「安全にご使用するにあたって」には注意を払ってください。
スノーモビルの車体に貼られた警告ラベルと注意ラベルには、すべて目を通してください。また同梱の「スノーモビル安全ハンドブック」にも目を通してください。

スノーモビルの乗り方を学ぶ

スノーモビルに乗る時はその前に、30ページのリストにある使用前の点検を必ずおこなってください。スノーモビルの点検に短時間を費やしても、安全性やスノーモビルの信頼性が高まることで報われます。ライダーの体温を保ち、また事故が起こった場合に怪我をしないように、常に適切な服装を着用してください。
たとえ充分なライディング経験があっても、スノーモビルをお買い求めの際にはまず低速運転から慣れてください。スノーモビルのハンドリングや性能特性を完全に把握するまでは、スノーモビルを最高性能で運転しないでください。
初心者ライダーは、広く平坦な雪上で、スノーモビルに慣れるようにしてください。
障害物や他のスノーモビルなどが走行しない場所を選ぶようにしてください。スロットルとブレーキのコントロール方法を練習し、旋回の技術を習得してから、さらに難易度の高い地形にトライするようにしてください。
エンジンをかける時はあらかじめパーキングブレーキをかけ、32ページの指示に従ってください。エンジンの暖機運転が完了すると、走行可能な状態になります。

発進、加速

1. エンジンをアイドリングさせたまま、パーキングブレーキを解除します。
2. スロットルをゆっくりとスムーズに開けます。
   Vベルトクラッチがつながり、発進して加速します。

⚠警 告

スノーモビルの始動時には、後ろに人が誰もいないことを確認してください。破損したトラックやトラック固定具、あるいは小石などがはねることがあり、危険です。

ブレーキをかける

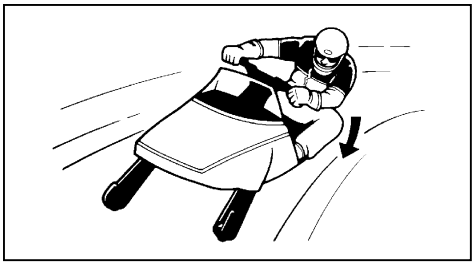
⚠警 告

- **氷や圧雪などでは、通常の雪面より停止距離がはるかに長くなります。注意を怠らず、先を見通して、早めに減速してください。**
- **ブレーキのかけ方が悪いとドライブトラックがトラクション（グリップ力）を失い、制御能力が低下し、事故を起こす可能性が高くなります。**

減速または停止する時は、スロットルを放し、ブレーキを徐々にかけます（急にかけてはいけません）。

曲がる

大部分の雪面では「体を使って」曲がることが大切です。
カーブに近づくに従って減速し、曲がりたい方向にハンドルバーを徐々に向けます。同時に曲がる方向のフットレストに体重をかけ、上体を内側に傾けます。



障害物のない広い平らな場所で、この手順を低速で何度も練習してください。いったんこのテクニックが身についたら、もっと高速できついカーブでも応用できるはずです。
スロットルの急な開閉、強すぎるブレーキ操作、間違った体の動かし方、カーブに対して速すぎる速度など、不適切な運転方法はスノーモビルの転倒の原因となります。
カーブでスノーモビルが転倒しかけたら、体をさらに内側に傾けてバランスを取り戻してください。必要ならスロットルをゆっくり戻すか、またはハンドルバーを外側に切り戻してください。

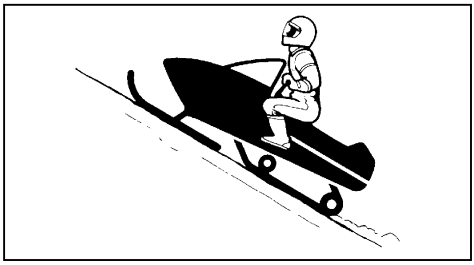
重要：
スノーモビルの運転に充分習熟するまでは、高速走行をしないでください。

坂を上る

⚠警 告

- **坂での運転は正しいテクニックを使わないと、コントロールを失うことがあります。事故のリスクを少なくするためにも、取扱説明書の指示に従ってください。**
- **スキルが上達するまで難しい急な坂では運転しないでください。**

まず最初は傾斜のゆるやかな坂で練習します。スキルが上達して初めて、もっと難しい上り坂を練習してください。坂に近づくにつれて加速し、上り坂になる前にスロットルを戻してトラックのすべりを防止します。体重は常に坂の上側に向けてかけておくことが大切です。体を前に傾けて坂を真っ直ぐに上ります。坂の勾配がきつくなるとフットレストに足を置いて立ち、ハンドルバーにかぶさるように体を前に倒します(「勾配を横断する」も参照)。



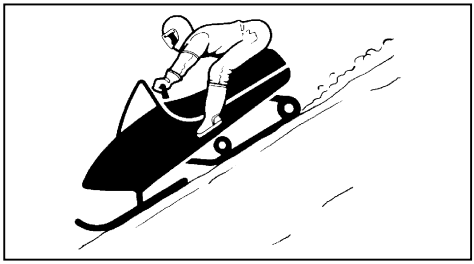
坂の頂上に近づくにつれて減速し、頂上の向こう側に障害物、急な下り坂、他の乗り物や人を見つけた場合に備えます。途中で坂を上れなくなったら、トラックをスピンさせてはいけません。エンジンを止め、パーキングブレーキをかけます。スノーモビルのリヤを引っぱって坂の下側にスノーモビルを向けます。次いで坂の上側からスノーモビルに乗ります。エンジンを再始動し、パーキングブレーキを解除し、坂を下ります。

坂を下る

⚠警 告

下りでブレーキをかける時には充分に注意してください。ブレーキを強くかけ過ぎるとドライブトラックがロックし、制御不能になります。

坂を下る時は最低速度を保ってください。下っている間クラッチをつないでおくために必要な量だけのスロットルを開けることが大切です。こうすればエンジンの圧縮行程がスノーモビルの減速に役立ち、またスノーモビルが惰性で坂を下ることも防げます。またブレーキも軽く頻繁にかけてください。

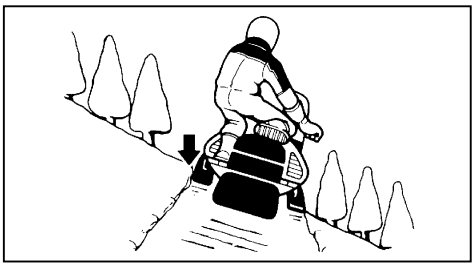


勾配を横断する

⚠警 告

サイドヒル（丘の横側）での運転は正しいテクニックを使わないと、コントロールを失うことがあります。事故のリスクを少なくするためにも、取扱説明書の指示に従ってください。ゆるやかな坂で、スキルが上達するまで難しい急な坂では運転しないでください。

勾配を横断するには、体重を適切な位置にかけ適切なバランスを保つ必要があります。勾配を横断する時は体重が坂の上側にかかるように体を傾けます。坂の下側に位置する膝をシートに置き、坂の上側に位置する足をフットレストに置く姿勢がよいでしょう。こうすれば必要に応じて体重移動を楽におこなうことができます。



雪や氷は滑りやすいので、スノーモビルが横向きに滑った時に備えるようにしてください。そのような場合は、滑った方向に―その先に障害物がなければ―ハンドルを切ります。適切なバランスを回復したら、元の方向に徐々にハンドルを戻します。
曲がる時スノーモビルが転倒しかけた場合は、坂の下側にハンドルを切ってバランスを取るようにしてください。

⚠警 告

バランスが保てずスノーモビルが転倒しかけた場合は、直ちにスノーモビルから体を離し、坂の上側に避難してください。

氷の上、凍結面

⚠警 告

氷の上または凍結面で運転しなければならない場合は、ゆっくりと慎重に走行してください。
急加速、急転回、急ブレーキは避けてください。ハンドルの動きは最小限にしてください。制御不能になり、転倒する危険があります。

氷の上や凍結面での運転は非常に危険になりがちです。転回、停止、発進のためのトラクションが雪よりはるかに小さいためです。

圧雪面

圧雪の上は、新雪と比べスキーとドライブトラックのトラクションが小さくなるため操縦がより困難です。急加速、急転回、急ブレーキは避けてください。

雪、氷以外の表面上での運転

雪、氷以外の表面ではスノーモビルを運転しないでください。そのような条件下での運転はスキーランナー、ドライブトラック、スライドランナー、ドライブスプロケットを傷めたり摩耗を早めます。次のような表面でのスノーモビルの運転は決しておこなわないでください。

- 泥
- 砂
- 岩
- 草
- 雪のない路面

この他、次のような表面も、ドライブトラック、スライドランナーを長持ちさせるため運転を避けてください。

- 鏡氷面
- 多量の泥と砂が混ざった雪

上記の表面はみなドライブトラックとスライドランナーに関して一つの共通点があります。それは潤滑能力がほとんどない、あるいは全くない、ということです。ドライブトラックとスライドレール系全体はスライドランナーとスライドメタルとの間の潤滑（雪または水）を必要します。潤滑がおこなわれないとスライドランナーは短期間で摩耗し、ひどい場合には文字通り溶けてなくなり、ドライブトラックに損傷や故障が発生します。

またトラクション増強のためのスタッドや滑り止めなども、トラックの損傷、故障をいっそうひどくする可能性があります。

⚠ 警 告

ドライブトラックが損傷・故障するとブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。

- **スノーモビルを運転する時は必ずあらかじめドライブトラックを点検し、損傷、調整不良がないか調べてください。**
- **ドライブトラックが損傷していた場合スノーモビルは運転しないでください。**

注 意

できるだけ新雪の上を走行するようにしてください。氷や圧雪の上で運転するとスライドランナーの摩耗が早くなります。

ドライブトラックを長持ちさせるには

トラックのテンション（張力）

最初のならし運転の期間、新しいドライブトラックはなじむ過程で伸びが早くなりがちです。トラックのテンションとアライメントの調整を欠かさず頻繁に行ってください（調整手順は、67ページを参照）。緩んだトラックは（ドライブスプロケットとの間で）スリップし、外れ、あるいはサスペンション部品を噛み込み、重大な損傷をもたらす恐れがあります。ドライブトラックはきつく張り過ぎないでください。トラックとスライドランナーとの摩擦が増大し、両方の部品の摩耗が早まります。またサスペンション部品への負荷が過大になり、故障の原因となります。

雪が少ない場合

ドライブトラックとスライドランナーは雪と水で潤滑・冷却されます。これら部品の過熱を防ぐため、雪が極端に少ない凍結路や、凍結した湖、河で長時間高速走行することは避けてください。トラックの内部が過熱によって弱くなり、故障や損傷の原因となります。

オフトレール走行

積雪が充分でない限りオフトレール走行は避けてください。岩、倒木など、堆積物を充分に覆う走行面ができるには、一般に1メートル程度の積雪が必要です。積雪が不充分な場合、ドライブトラックへの衝撃による損傷を防ぐためトレールの外を走行しないでください。

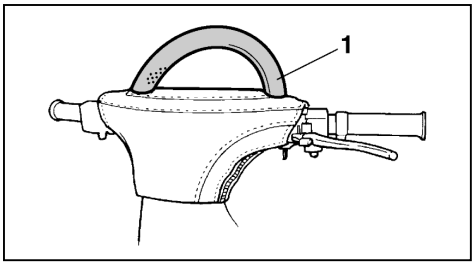
スタッドトラック

スタッド付きのトラックは一般に短寿命です。ドライブトラックにスタッドホールを開けるため内部の繊維が切断され、トラックの強度が低下するためです。

ヤマハはトラックへのスタッド装着を推奨しません。

ストラップ

ストラップは、経験のあるライダーがサイドヒル（丘の斜面）を走る時のアシスト用にのみ使用するものです。



1. ストラップ

⚠警 告

- **ストラップは、サイドヒル（丘の斜面）を走る時に、斜面の上側に体重を移動してバランスを取るために、ライダーのグリップポイントとして使用してください。ストラップが必要なほどの急勾配の斜面を走行するのは経験のあるライダーに限られます。**
- **斜面を走行する時、ライダーの右手はハンドルバーの右グリップを掴み、左手はストラップを掴んで体重を斜面の上側に移動してバランスを取るようにしてください。**
- **ストラップを使う時は、注意して運転してください。ストラップを持ちながらの急加速や急減速は避けてください。**
- **スノーモビルを持ち上げるためにストラップを使用しないでください。**
- **ストラップを荷物やアクセサリの固定用に使用しないでください。**

走行

⚠警 告

スノーモビルを運転する前に、必ず本書の6ページの「安全にご使用するにあたって」と、34ページの「スノーモビルに乗る」の項をお読みください。

要　点

スノーモビルを運転する前に、エンジンの暖機運転を行ってください。

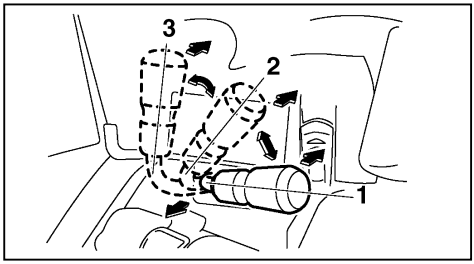
⚠警 告

- **シフト操作は必ず、スロットルレバーを完全に放しスノーモビルが完全に停止した状態で行ってください。**
- **シフトレバーを“D”、“R”または“L”に切り替える時は、スノーモビルが完全に停止するか、またはエンジンがアイドリング回転の時に行ってください。**
- **シフトレバーを“L”位置にして、80km/h以上で走行しないでください。**
- **後退時は、スノーモビルの後方に障害物がないことを確認してください。後方に注意してください。**
- **後退する時は速度を落とし、急転回を避けてください。**

1. エンジンのアイドリング回転時に、シフトレバーを引いて必要なポジション（“D”、“R”、または“L”位置）を選択し、手を離してください。

注 意

スノーモビルが動いている時は、シフトレバーを前進から後退に、または後退から前進にシフトしないでください。そのようなシフトを行うと、駆動系が損傷する恐れがあります。

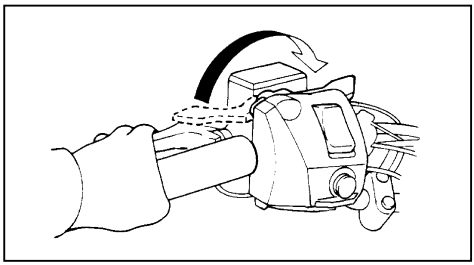


1. “D”走行（前進）
2. “R”後退
3. “L”低速走行（前進）

要　点

トランスミッションが後退の時は、リバースブザーが鳴ります。

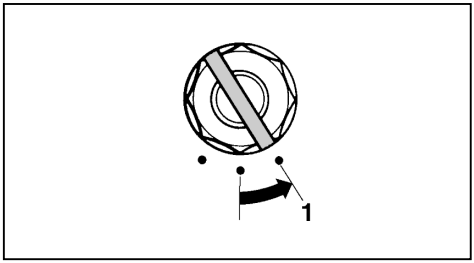
2. パーキングブレーキレバーを右に倒して、パーキングブレーキを解除します。



3. スロットルレバーをゆっくり押し込んで、スノーモビルを動かします。
4. 曲がりたい方向にハンドルバーを回します。
5. スノーモビルを停止するには、ブレーキレバーを握ります。
6. パーキングブレーキレバーを左に倒して、パーキングブレーキをかけます。

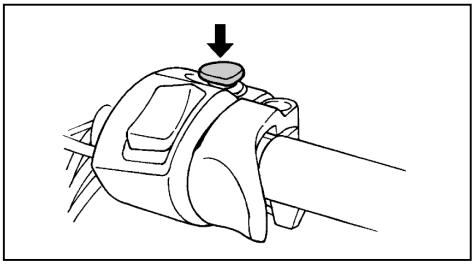
エンジン停止

- エンジンを停止するには、メインスイッチをOff（オフ）位置にしてください。



1. Off（オフ）位置

- エンジンを緊急停止させるには、エンジン停止スイッチを押してください。



輸送

スノーモビルをトレーラーやトラックで輸送する時は、損傷を避けるため次の注意事項を守ってください。

- 燃料タンク内の燃料のレベルは確実にキャブレタの底より低くしてください。路面から伝わった振動やショックのため燃料がキャブレタからシリンダに流れ込むことがあります。その場合エンジン内にたまった燃料のためエンジンが始動できない「ハイドロロック」状態が生じます。ハイドロロックはエンジンに重大な損傷を引き起こす恐れがあります。できれば輸送中は、特に輸送時間が30分を超える場合は、燃料タンクを空にしてください。
- スノーモビルを幌のないトレーラーやトラックで輸送する場合、スノーモビルにカバーをかけしっかりと固定してください。カバーは専用設計のものが最善です。カバーをかければシュラウドの冷却用空気取り入れ口に異物が入らず、道路の小石がはねてスノーモビルを傷つけることも防げます。
- 道路に融雪剤が撒かれた区域を幌のないトレーラーやトラックで輸送する場合、オイルやその他防護剤を金属製サスペンションの表面に薄く塗ってください。腐食を防ぐ助けになります。目的地に着いたなら必ずスノーモビルを洗浄し、腐食性の融雪剤をきれいに落としてください。

定期点検

定期的な点検、調整そして給油脂を行う事によって、スノーモビルを安全で快適な状態に保つことができます。安全対策はオーナーまたはオペレーターの義務です。点検、調整そして給油脂において最も大切なポイントは以下のページを参照してください。

⚠警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検/整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**

⚠警 告

整備作業をおこなう場合は、特別な指示がない限り、エンジンを停止してください。

排ガス制御装置の定期点検チャート

'*' 印の項目については特殊な工具、データ、技術を要する為ヤマハ販売店にご依頼ください。

	点検項目	点検内容	初期点検	日常点検
			1ヵ月 または 800 km 走行後 (40時間)	シーズン毎 または 4000 km 毎 (200時間)
	スパークプラグ	• 状態を点検する。 • スパークプラグギャップの調整と清掃。 • 必要に応じ交換する。		●
*	バルブクリアランス	• エンジンの冷却時に、バルブクリアランスの点検と調整を行う。	40000 km毎	
*	クランクケースブリーザーシステム	• ブリーザーホースのひび割れ、損傷の有無の点検。 • 必要に応じ交換する。		●
*	燃料フィルタ	• 状態を点検する。 • 必要に応じ交換する。		●
*	燃料ライン	• ホースのひび割れ、損傷の有無を点検。 • 必要に応じ交換する。		●
*	アイドリング回転数	• アイドリング回転数の点検と調整。	●	●
*	キャブレタ	• 同期調整。	●	●
		• 燃料噴射量を調整する。	運転条件（標高、温度）が変わった時。	
*	排気系統	• 漏れの有無を点検。 • 必要に応じ、増し締めまたはガスケットを交換する。		●

一般的な点検と潤滑チャート

	点検項目	点検内容	初期点検	日常点検
			1ヵ月 または 800 km 走行後 (40時間)	シーズン毎 または 4000 km 毎 (200時間)
	エンジンオイル	• 交換する（抜く前にエンジンを暖機すること）。	●	●
*	エンジンオイルフィルターカートリッジ	• 交換する。	●	日常点検 20000 km毎
*	冷却システム	• クーラントレベルを点検する。 • 必要に応じ、冷却システムのエア抜きをする。		●
*	プライマリークラッチ、 セカンダリークラッチ	• つながり具合とシフト速度を点検する。 • 必要に応じて調整。		●
			走行高度が変わった時。	
		• シーブアセンブリの摩耗、損傷の有無を点検する。 • プライマリーのウェイト、ローラー、ブッシングの摩耗を点検。 • セカンダリーのランプシューズ、ブッシングを点検。 • 必要に応じ交換する。		●
		• 指定グリースを注油。		●
*	ドライブチェーン	• チェーンのたわみ量を点検する。 • 必要に応じて調整。	使用開始から500 km走行後、 以後800 km走行毎。	
*	ドライブチェーンオイル	• オイルレベルを点検する。	●	●
		• 交換する。		●
*	ブレーキ、 パーキングブレーキ	• 遊びを調整し、必要に応じパッドを交換する。		●
		• ブレーキ液を交換する。	当チャートの注釈を参照。	
	コントロールケーブル	• 作動がスムーズか確認する。 • 必要に応じ、給脂する。		●
*	ディスクブレーキの取り付け状態	• 過度の遊びがないか点検する。 • 必要に応じ、指定のグリースをシャフトに給脂する。	1600km毎	
*	スライドランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。		●
*	スキー、スキーランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。		●

	点検項目	点検内容	初期点検	日常点検
			1ヵ月 または 800 km 走行後 (40時間)	シーズン毎 または 4000 km 毎 (200時間)
*	ステアリング系	• スキーのトーアウトを点検する。 • 必要に応じて調整する。		●
*	ステアリングベアリング	• ベアリングアセンブリのがたの有無を点検する。 • 指定グリースを給脂する。		●
*	スキー、 フロントサスペンション	• 指定グリースを給脂する。		●
*	リヤサスペンション	• 指定グリースを給脂する。		●
	取付金具、ボルト類	• すべてのナット、ボルトおよびスクリュが、正しいトルクで締め付けられているか確認する。 • 必要に応じ増し締めする。	●	●
*	バッテリ	• バッテリの状態を点検する。 • 必要に応じ充電する。		●

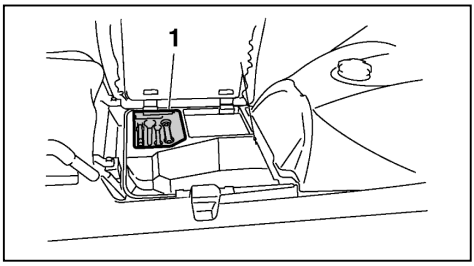
要　点

ブレーキ系統：

- マスターシリンダまたはキャリパーシリンダを分解した時は、ブレーキ液を必ず交換してください。
  通常はブレーキ液レベルを点検し、必要に応じブレーキ液を補充してください。
- マスターシリンダおよびキャリパーシリンダのオイルシールは、2年毎に交換してください。
- ブレーキホースは4年毎に、またはひび割や損傷が見つかった場合は直ちに交換してください。

ツールキット

ユーザー用ツールキットには、通常の点検整備や簡単な修理に充分な工具類が入っています。この他に、ナットやボルトを正しいトルクで締め付けるためにトルクレンチも必要です。



1. ツールキット

注 意

エンジンを始動する前に、工具類がホルダにきちんと納められていることを確認してください。

要　点

トルクレンチが必要な整備をトルクレンチなしで行った場合は、整備後にスノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んでトルク点検を依頼し、必要ならトルクの調整を依頼してください。

スパークプラグの点検

スパークプラグは重要なエンジン部品ですが、簡単に点検することができます。スパークプラグの状態はエンジンの状態を示します。

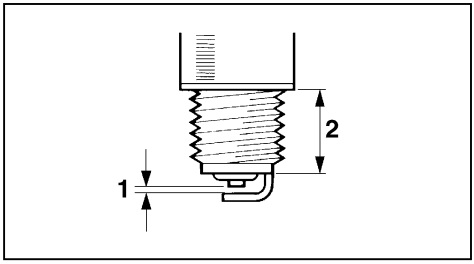
中心の電極を取り囲む白い磁器製の絶縁体の変色を点検してください。正常に運転されているスノーモビルなら、中程度～薄い小麦色が理想的な色です。これとは明らかに違う色だったなら、エンジンに何らかの異常があると考えられます。例えば絶縁体が白すぎる場合は混合気が薄すぎる等の問題が考えられます。これらの問題はご自身で判断せず、スノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んで検査を、そして場合によっては修理を受けてください。

スパークプラグは熱と堆積物によって徐々に壊れ溶けて行きますので、定期的に取り外して点検してください。スパークプラグを別のタイプに変える場合はヤマハ販売店にご相談ください。

指定スパークプラグ
メーカ名：
NGK
モデル番号：
CR8E

スパークプラグにはねじ山部分の長さが異なる何種類かがあります。ねじ山の長さ、つまりリーチは、スパークプラグガスケットシートからねじ山部分末端までの長さを表します。リーチが長すぎるとエンジンがオーバーヒートしたり損傷したりする恐れがあります。リーチが短すぎるとスパークプラグが汚れたりエンジン性能が低下する可能性があります。また露出したねじ山部にカーボンが付着して燃焼室にホットスポットを形成し、ねじ山を損傷します。スパークプラグは必ず指定されたリーチのものを使用してください。

スパークプラグのリーチ：
19.0mm



1. スパークプラグのギャップ
2. スパークプラグのリーチ

スパークプラグを取り付ける時はワイヤーシックネスゲージで電極ギャップを測定し、規定の数値に調整してください。

スパークプラグのギャップ：
0.7～0.8 mm

またスパークプラグを取り付ける時は必ずガスケット面を清掃してください。ねじ山に汚れがついていたら拭き取り、規定トルクでプラグを締めつけてください。

スパークプラグの締め付けトルク：
12.5Nm (1.25 kgf・m)

注 意

スパークプラグのキャップが確実に取り付けられている事を確認してください。確実に取り付けられていない場合、エンジンの振動でスパークプラグのキャップが損傷する可能性があります。

エンジンのアイドリング回転数の調整

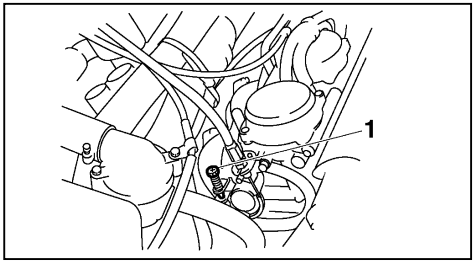
1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。

2.エンジンを始動し暖機運転します。

要 点

32ページの「エンジンの始動」の項を参照してください。

3. シュラウドを開けます。
4. スロットルストップスクリュを締めるか、または緩めて、エンジンのアイドリング回転数を調整します。



1. スロットルストップスクリュ

標準のエンジンアイドリング回転数：
1300～1500 r/min

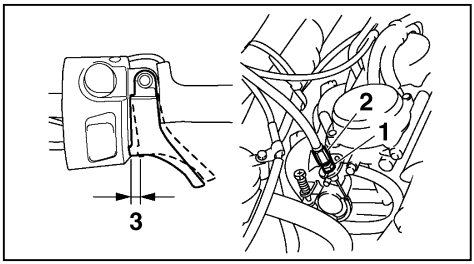
5. シュラウドを閉めます。

スロットルケーブルの遊びの調整

注 意

まず最初に、エンジンのアイドリング回転数を調整してください。

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. シュラウドを開けます。
3. ロックナットを緩めます。
4. 指定されたスロットルケーブルの遊びになるまで、スロットルケーブルの遊びの調整ボルトを締めるか緩めます。



1. ロックナット
2. スロットルケーブルの遊びの調整ボルト
3. スロットルケーブルの遊び

スロットルケーブルの遊び：
2.0～3.0 mm

5. ロックナットを締め付けます。
6. シュラウドを閉めます。

スロットルオーバーライドシステム（T.O.R.S.）の点検

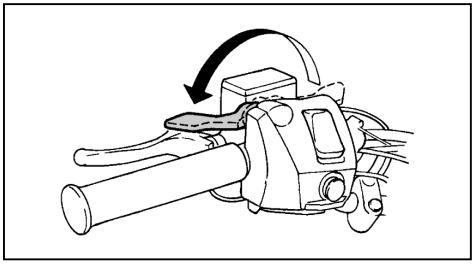
⚠ 警 告

T.O.R.S.を点検する際はスノーモビルが動いて事故を起こさないように、気をつけてください。

- **パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。**
- **スロットルレバーがスムーズに動くことを確認してください。**
- **クラッチが回転し始めるまでエンジンの回転数を上げないでください。**

T.O.R.S.が適切に作動するか点検してください。

1. パーキングブレーキをかけます。

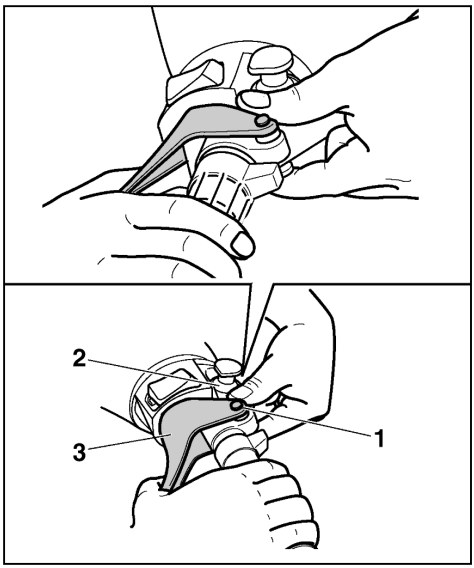


2. エンジンを始動します。

要 点

32ページの「エンジンの始動」の項を参照してください。

3. スロットルレバーの回転軸とエンジン停止スイッチハウジングの間を親指（上側）と人指し指（下側）で挟み、スロットルレバーの回転軸をスロットルスイッチから離します。
この状態を保ったまま、スロットルレバーを徐々に押します。



1. スロットルレバーの回転軸
2. エンジン停止スイッチハウジング
3. スロットルレバー

T.O.R.S.が作動し、エンジンはクラッチが接続される回転数以下になります。

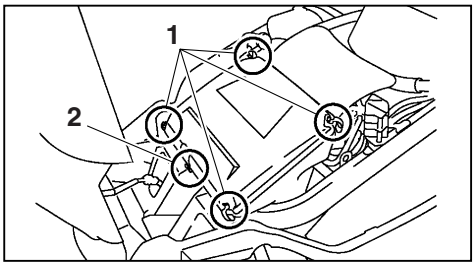
⚠ 警 告

クラッチが接続される回転数以下にエンジン回転数が下がらない場合は、メインスイッチをOffにしてエンジンを止め、ヤマハ販売店にご相談ください。T.O.R.S.が誤作動したままスノーモビルを運転すると、制御不能になる可能性があります。

エアフィルタの点検

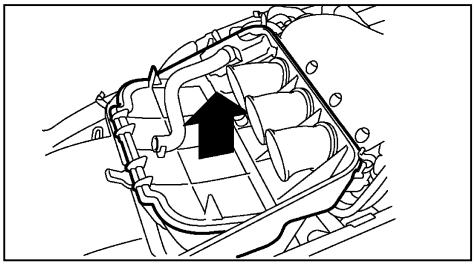
エアフィルタエレメントフレームの下側に残雪がないか、必ず点検してください。

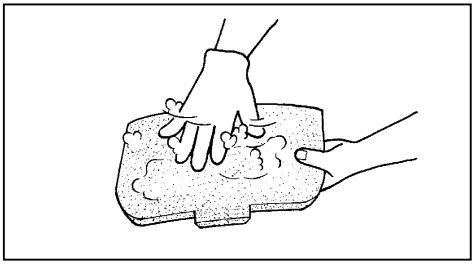
1. シュラウドを開きます。
2. エアフィルタケースのファスナーとエアフィルタケースカバーのファスナーのフックを外し、エアフィルタケースカバーを取り外します。



1. エアフィルタケースカバーのファスナー
2. エアフィルタケースのファスナー

3. エアフィルタエレメントフレームを持ち上げ、エアフィルタエレメントを点検します。エアフィルタエレメントに残雪がある場合は、エアフィルタエレメントを取り外して残雪を取り除きます。その後、エアフィルタエレメントを取り付けます。





4. 元の位置にエアフィルタエレメントフレームを取り付けます。
5. すべてのファスナーのフックを掛け、エアフィルタケースカバーとエアフィルタケースを取り付けます。
6. シュラウドを閉めます。

キャブレタ

キャブレタはエンジンとその排ガス制御システムの重要部品であり、非常に高度な調整が求められます。従って、キャブレタの調整は、専門の知識と経験を持つヤマハ販売店で行うようにしてください。

標高の高い場所で走行する場合の設定

ガソリンエンジンは標高が305m上がる毎に、性能が約3%低下します。これは標高が高くなるにつれ空気が薄くなるためです。空気が薄くなれば燃焼に必要な酸素も少なくなります。
お求めになったスノーモビルは、標高の高い場所での走行で生ずる問題のほとんどを克服するよう、調整が可能です。最も重要なものはキャブレタ調整です。高い標高で空気が薄くなると燃料・空気の混合比が濃くなり過ぎ、エンジン性能が低下します。このため一般に、始動困難、エンジンの濡れ、プラグの汚れが生じます。
適切なキャブレタ設定により混合比を適正にすることができます。この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

重要：
空気が薄く標高が高くなると、適切なキャブレタ設定を行っても馬力が低下します。加速も最高速度も低下すると考えてください。
標高の高いところでの馬力低下を克服するため、さらにドライブチェーンギヤとVベルトクラッチの調整を変更し、性能低下と急速な摩耗を回避することが必要なこともあります。スノーモビルをお買い求めの場所とは標高が異なる場所で運転する場合は、必ずヤマハ販売店にご相談ください。その標高のために何らかの変更が必要かどうか、ヤマハ販売店から説明があります。

注 意

900mより高い標高で運転する場合は、ドライブチェーンのギヤとVベルトクラッチの調整が必要です。これについてはヤマハ販売店にご相談ください。

バルブクリアランス

バルブクリアランスは、スノーモビルの使用に従って変化するため、結果としてエアと燃料の混合比やエンジンノイズの異常が起こります。これらを防ぐには、定期点検チャートに示された周期で、バルブクリアランスをヤマハ販売店で調整する必要があります。

エンジンオイルとオイルフィルタカートリッジ

エンジンオイルのレベルは、スノーモビルを使用する度に点検する必要があります。また、定期点検および潤滑チャートに指定された周期で、エンジンオイルとオイルフィルタカートリッジを交換しなければなりません。

⚠警 告

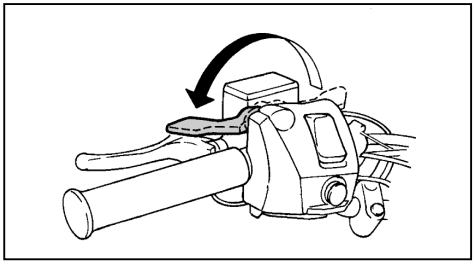
エンジンを止めた直後は、エンジンオイルが非常に高温になっています。高温状態のエンジンオイルに触れたり、衣服にかかったりすると火傷する恐れがあります。

注 意

- **オイルタンク内のオイルが多すぎる状態、または少なすぎる状態でエンジンを回さないでください。エンジンオイルが噴き出したり、エンジンが損傷する恐れがあります。**
- **エンジンオイルは走行距離が800 kmに達した時点で交換し、それ以降は4000 km毎に、またはシーズンが始まる前に交換してください。エンジンオイルの交換時期が遅れると、エンジンの摩耗が早まることになります。**
- **オイルフィルターカートリッジは、20000 km毎に交換してください。**

エンジンオイルレベルの点検方法

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。



2. エンジンを始動し、10～15分間ほどアイドリング運転してから、エンジンを止めます。

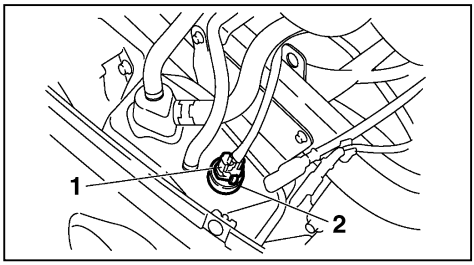
要　点

- エンジンの暖機は、スノーモビルを10～15分間走行させて行うこともできます。
- スノーモビルの運転後、エンジンを少なくとも10秒間アイドリングさせてから、エンジンを止めてください。

3. シュラウドを開きます。
4. オイルレベルゲージカプラーを外します。

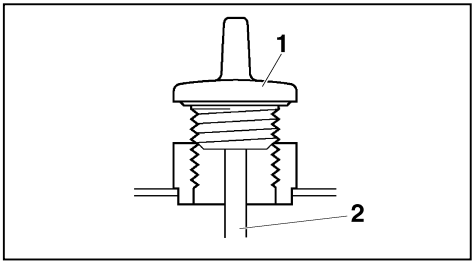
注 意

オイルフィラーキャップを外す前にオイルレベルゲージカプラーを外してください。オイルレベルゲージカプラーを外さないと、ケーブルがねじれたり、破断する可能性があります。



1. オイルレベルゲージカプラー
2. オイルフィラーキャップ

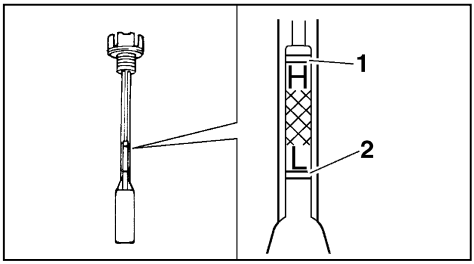
5. オイルフィラーキャップを外し、ディップスティックを拭いてきれいにし、それを元のオイルフィラーホールに差し込み（但し、差し込むだけで、ねじ込まない）、もう一度外してオイルレベルを確認します。



1. オイルフィラーキャップ
2. ディップスティック

要　点

エンジンオイルは、ディップスティックの“H”と“L”レベルの間でなければなりません。



1. “H”レベルのマーク
2. “L”レベルのマーク

6. エンジンオイルが“L”レベルのマークより低い場合は、充分な量の推奨エンジンオイルを補充してオイルが“H”レベルのマーク位置になるようにします（推奨エンジンオイルについては、54ページを参照）。

注 意

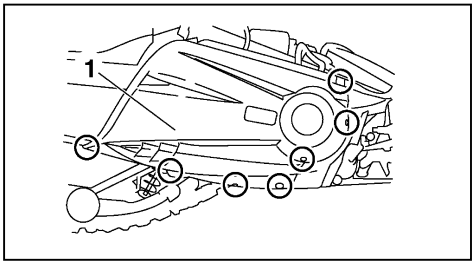
- **エンジンオイルを補充する時は、ディップスティックの“H”レベルのマークより上にならないように注意してください。**
- **推奨エンジンオイルのみを使用してください。**
- **エンジンオイルタンク内に異物が混入しないように注意してください。**

7. ディップスティックをオイルフィラーホールに差し込み、オイルフィラーキャップを締め付けます。
8. オイルレベルゲージカプラーを接続します。
9. シュラウドを閉じます。

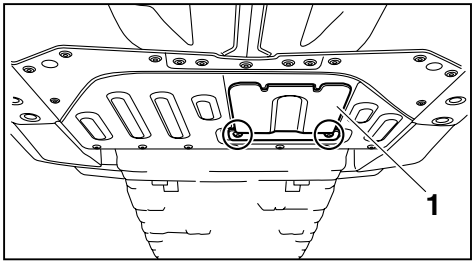
エンジンオイルの交換方法（オイルフィルタカートリッジを交換する場合と交換しない場合）

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転してから、エンジンを止めます。
3. シュラウドを開きます。

4. 右側カバーとボトムパネルを取り外します。

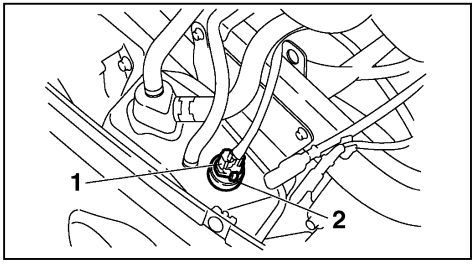


1. 右側カバー



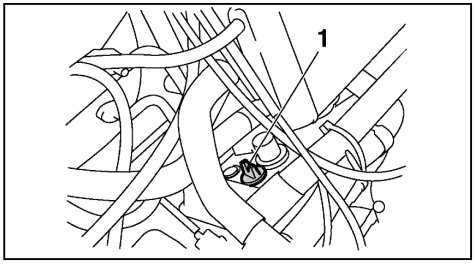
1. ボトムパネル

5. オイルタンクの下側にオイルパンを置きます。
6. オイルレベルゲージカプラーを外します。

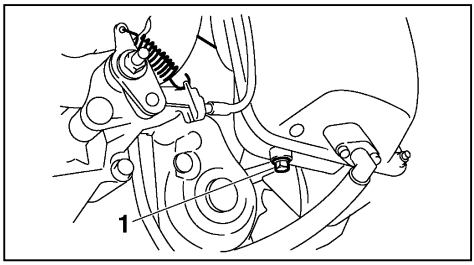


1. オイルレベルゲージカプラー
2. オイルフィラーキャップ

7. オイルフィラーキャップ、シリンダヘッドキャップ、およびエンジンオイルドレンボルト（オイルタンク）を外して、オイルタンク内のエンジンオイルを排油します。

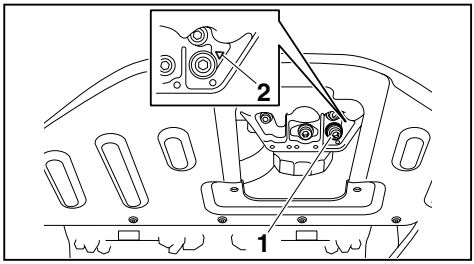


1. シリンダヘッドキャップ



1. エンジンオイルドレンボルト（オイルタンク）

8. エンジンの下側にオイルパンを置きます。
9. エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）を外し、クランクケース内のエンジンオイルを排油します。

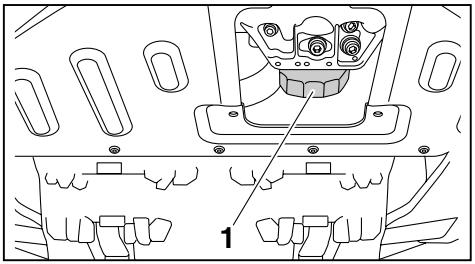


1. エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）
2. “▽”マーク

要　点

- “▽”マークは、エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）付近のクランクケースに刻印されています。
- 使用済みのエンジンオイルは、法令に従って廃棄してください。
- オイルフィルタカートリッジを交換しない場合は、ステップ10～12を省略してください。

10. オイルフィルタレンチを使って、オイルフィルタカートリッジを外します。



1. オイルフィルタカートリッジ

要　点

オイルフィルタレンチはヤマハ販売店で入手できます。

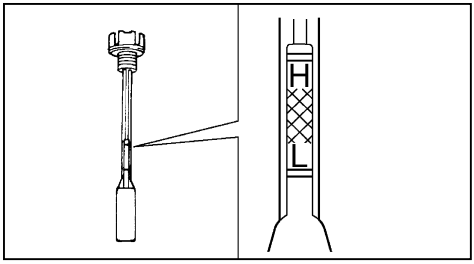
11. 新しいオイルフィルタカートリッジのOリングに、エンジンオイルを薄く塗布します。
12. オイルフィルタレンチを使って新しいオイルフィルタカートリッジを取り付け、規定トルクで締め付けます。

締め付けトルク：
オイルフィルタカートリッジ：
17 Nm (1.7 kgf・m)

13. エンジンオイルドレンボルトを取り付けた後、それぞれのボルトを規定トルクで締め付けます。

締め付けトルク：
エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）：
10 Nm (1.0 kgf・m)
エンジンオイルドレンボルト（オイルタンク）：
16Nm (1.6 kgf・m)

14. 推奨エンジンオイルを2.0Lほどオイルタンクに補充し、オイルフィラーキャップとシリンダヘッドキャップを付け、締め付けます。
15. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転してから、エンジンを止めます。
16. ディップスティックの“H”レベルのマークの位置まで、推奨エンジンオイルを補充します（点検手順については上記の説明を参照）。



注 意

- **エンジンオイルを補充する時は、ディップスティックの“H”レベルのマークより上にならないように注意してください。**
- **推奨エンジンオイルのみを使用してください。**
- **エンジンオイルタンク内に異物が混入しないように注意してください。**

推奨エンジンオイル：
　スノーオイル R-FORCE
　SAE 0W-30
オイル量：
　オイルフィルタカートリッジを
　交換した場合：
　　3.0L
　オイルフィルタカートリッジを
　交換しない場合：
　　2.8L
オイル総量：
　　3.7L

17. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転しながら、エンジンオイルの漏れがないことを確認してください。オイル漏れがある場合は、直ちにエンジンを止め、エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）、エンジンオイルドレンボルト（オイルタンク）、シリンダヘッドキャップ、およびオイルフィラーキャップが正しく取り付けられているか確認してください。

18. エンジンを止めて、オイルレベルゲージカプラーを接続します。

注 意

オイル漏れがある場合、またはエンジン回転時にオイルレベル警告灯が点灯した場合は、直ちにエンジンを止めて、ヤマハ販売店でスノーモビルの点検を行ってください。上記のような状態でエンジンを回し続けると、エンジンに深刻な障害が発生する原因になります。

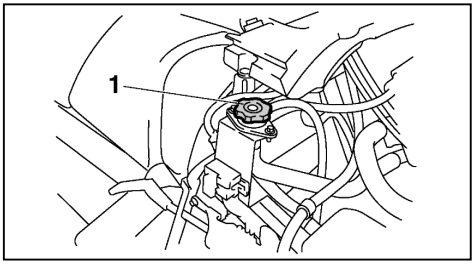
19. ボトムパネルと右側カバーを取り付けてから、シュラウドを閉じます。

冷却システム

スノーモビルに乗る時は、毎回クーラントレベルを点検してください。また、冷却システムのエア抜きを、定期点検および潤滑チャートに指定された周期で実施してください。

⚠ 警 告

エンジンが高温状態の時は、ラジエータキャップを決して外さないでください。加圧状態になっている非常に高温のラジエータ液が噴き出して、大やけどを負う恐れがあります。
エンジンが冷えてから、ウエスまたはタオルをラジエータキャップにかぶせ、ラジエータキャップを左回り（反時計回り）に、止まる位置までゆっくり回してください。これにより、ラジエータ液の残留圧が抜けます。シューという音が消えたら、ラジエータキャップを左回りに回しながら押し込んで、ラジエータキャップを外します。



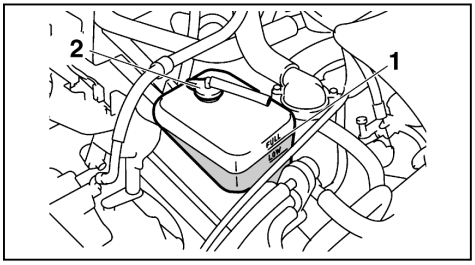
1. ラジエータキャップ

クーラントレベルの点検方法

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. シュラウドを開けます。
3. エンジンが冷えてから、クーラントリザーバ内のクーラントレベルを点検します。クーラントレベルが“LOW”マークより低い場合は、クーラントリザーバキャップを外し、“FULL”マーク位置に達するまでクーラントを補充します（詳細は、「クーラントの補充方法」の項の指示に従ってください）。

注 意

クーラントが入手できない場合は、蒸留水か水道水（軟水）を代用してください。硬水や塩水はエンジンを傷めますので使用しないでください。クーラントの代わりに水を使用した場合は、できるだけ早くクーラントと交換してください。水のままですと、冷却システムが凍結や腐食から保護されないことになります。クーラントに水を加えた場合は、できるだけ早くヤマハ販売店でクーラントの不凍液含有量を確認してください。放置すると不凍効果が低下することになります。



1. “FULL”マーク
2. クーラントリザーバキャップ

4. シュラウドを閉めます。

冷却システムのエア抜き

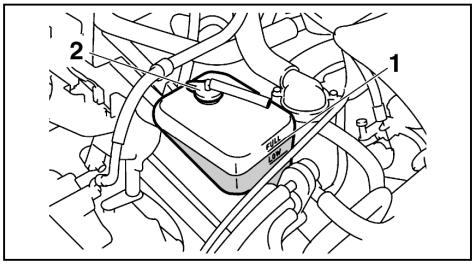
クーラントリザーバが空になった場合、冷却システム内のエア混入が疑われる場合、または冷却システムの漏れが見つかった場合は、冷却システムのエア抜きを行う必要があります。これについてはヤマハ販売店にご相談ください。

注 意

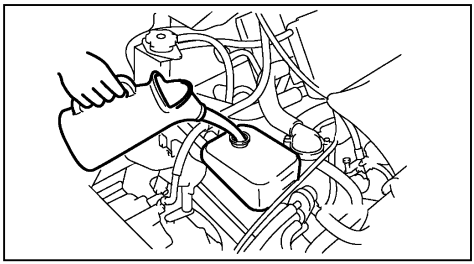
冷却システムのエア抜きが不充分な状態でエンジンを回し続けると、エンジンがオーバーヒートしたり、エンジンに深刻な障害を引き起こす恐れがあります。

クーラントの補充方法

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. シュラウドを開けます。
3. クーラントリザーバキャップを外し、“FULL”マーク位置に達するまでクーラントを補充します。



1. “FULL”マーク
2. クーラントリザーバキャップ



推奨不凍液：
　ヤマハ純正ロングライフクーラント
不凍液と水の混合比：
　3：2
総量：
　4.70 L

4. エンジンを始動し、クーラントレベルが低下しなくなるまでクーラントを補充してから、エンジンを止めます。
5. クーラントレベルが“FULL”マーク位置に達するまで、クーラントリザーバにクーラントを補充します
6. クーラントリザーバキャップを取り付けます。
7. クーラントの漏れの有無を点検します。

要　点

クーラントの漏れがある場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

8. シュラウドを閉めます。

Vベルト

⚠警 告

- **回転しているVベルトやクラッチに接触した場合、負傷または重傷を負う可能性があります。ドライブガードを外した状態でエンジンを作動しないでください。**
- **スノーモビルを運転する時は、破損したVベルトや他の外れた部品によって、負傷または重傷を負うことがないように、あらかじめドライブガードがしっかりと固定されていることを確認してください。**

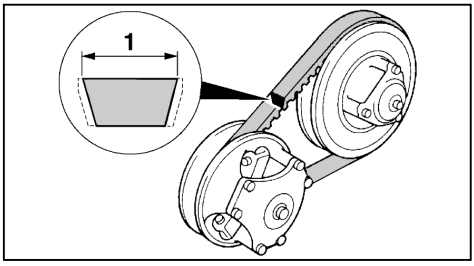
注 意

Vベルトを外した状態で、決してエンジンを作動しないでください。クラッチが損傷する可能性があります。

スノーモビルに乗る時は、毎回Vベルトを点検してください。

Vベルトの点検方法

1. シュラウドを開きドライブガードを外します。
2. Vベルトに摩耗や損傷がないか点検してください。必要に応じ交換してください。



1. Vベルトの摩耗限度

新しいVベルトの幅：
34.1 mm
Vベルトの摩耗限度幅：
32.5 mm

3. ドライブガードを取り付け、シュラウドを閉じます。

Vベルトの交換と調整方法

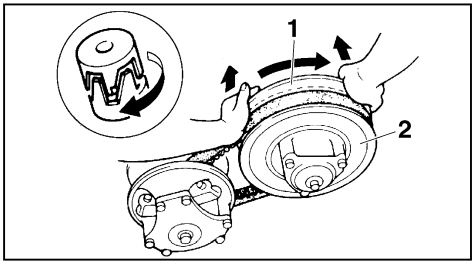
⚠警 告

新しいVベルトを取り付ける時は、正しい位置に確実に取り付けてられていることを確認してください。正しく取り付けられていない場合、クラッチが接続する回転数が変化し、エンジンを始動した時にスノーモビルが予期しない動きをして、事故の原因になる恐れがあります。

注 意

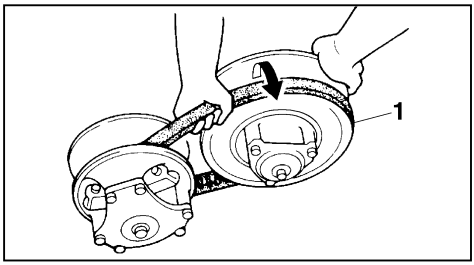
Vベルトが摩耗すると、Vベルトの位置は変更します。Vベルトの位置が既定値を外れた場合は、クラッチを正常に作動させる為に調整する必要があります。調整は、ヤマハ販売店に依頼してください。

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. シュラウドを開きドライブガードを外します。
3. セカンダリースライディングシーブを右回り（時計回り）に回し、セカンダリー固定シーブから分離するよう押し出します。



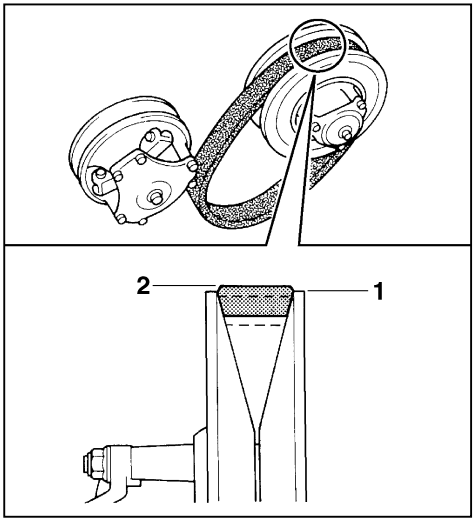
1. セカンダリースライディングシーブ
2. セカンダリー固定シーブ

4.Vベルトを引っ張り上げてセカンダリー固定シーブから外します。



1. Vベルト

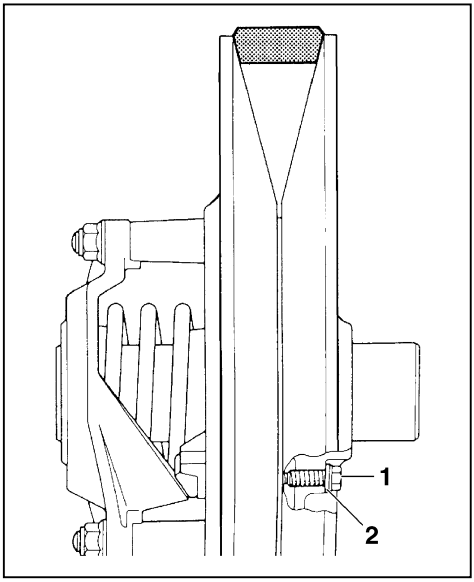
5. Vベルトをセカンダリー、プライマリー両方のシーブアセンブリから外します。
6. 新しいVベルトをセカンダリーシーブアセンブリだけに取り付けてから、Vベルトの位置を測定します。Vベルトを両方のシーブ間に押し込まないでください。セカンダリーのスライディングシーブと固定シーブとは互いに接触していなければなりません。



1. セカンダリーシーブアセンブリのエッジ部
2. Vベルトの位置

Vベルトの標準位置：
セカンダリーシーブアセンブリのエッジ部の上側1.5mmから、エッジ部の下側0.5mmの間

7. Vベルトの位置が正しくない場合は、それぞれのVベルト位置調整ボルトのスペーサを減らすか、追加してVベルトの位置を調整します。



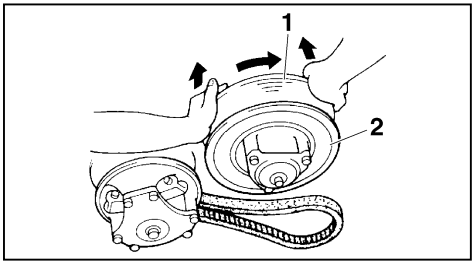
1. Vベルト位置調整ボルト
2. スペーサ

Vベルトの位置	調整
エッジ部の上側 1.5 mm以上	スペーサを減らす
エッジ部の上側 1.5 mmから、 エッジ部の下側 0.5 mmの間	調整不要 （正しい位置です。）
エッジ部の下側 0.5 mm以上	スペーサを追加する

8. Vベルト位置調整ボルトを締め付けます。

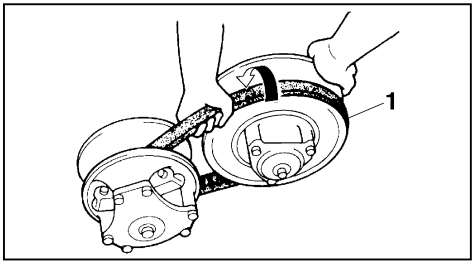
Vベルト位置調整ボルトの
締め付けトルク：
10 Nm (1.0 kgf・m)

9. Vベルトをプライマリーシーブアセンブリに取り付けます。
10. セカンダリースライディングシーブを右回り（時計回り）に回し、セカンダリー固定シーブから分離するよう押し出します。



1. セカンダリースライディングシーブ
2. セカンダリー固定シーブ

11. Vベルトをセカンダリースライディングシーブと固定シーブの間に取り付けます。



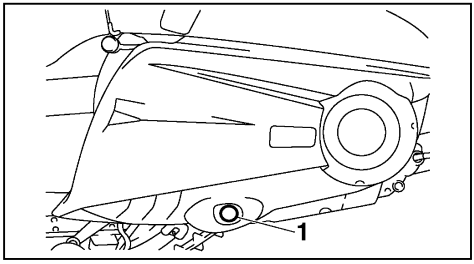
1. Vベルト

12. ドライブガードを取り付け、シュラウドを閉じます。

ドライブチェーンハウジング

ドライブチェーンハウジングのオイルレベルの点検方法

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. ラバーキャップを外します。

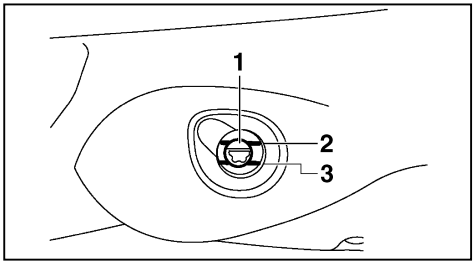


1. ラバーキャップ

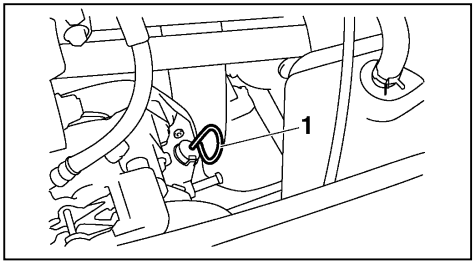
3. ドライブチェーンハウジングに設けられたドライブチェーンオイル点検窓で、オイルレベルを確認します。オイルのレベルがロアレベルより低い場合は、ディップスティックを外し、充分な量の推奨オイルを補充してオイルがフルレベルになるようにします。

注 意

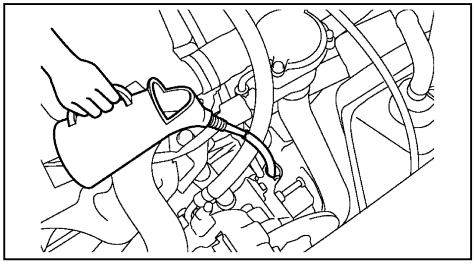
ドライブチェーンハウジングに異物が入らないようにしてください。



1. ドライブチェーンオイル点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

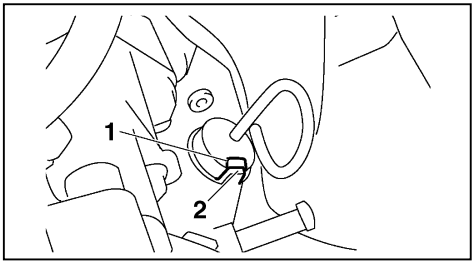


1. ディップスティック



推奨ドライブチェーンオイル：
SAE 75W または
80W API GL-3ギヤオイル

4. ディップスティックを取り付け、ディップスティックハンドルのノッチ部をドライブチェーンハウジングの突起部に合わせます。



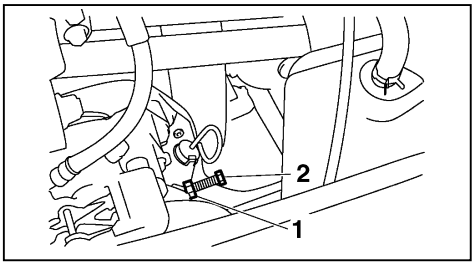
1. ノッチ部
2. 突起部

5. ラバーキャップを取り付けます。

チェーンのテンション調整

1. ロックナットを緩めます。
2. チェーンテンション調整ボルトを、右回り（時計回り）に手で締まる程度に締め付けてから、1/4回転ほど戻します。
3. チェーンテンション調整ボルトを動かさずに、ロックナットを締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
25 Nm (2.5 kgf · m)



1. ロックナット
2. チェーンテンション調整ボルト

ブレーキ、パーキングブレーキ

⚠警 告

- **ブレーキレバーを握った時やわらかくスポンジのような感触があるなら、ブレーキ系に故障があります。**
- **その場合スノーモビルは運転しないでください。ブレーキがかからず、事故を起こす恐れがあります。ヤマハ販売店にブレーキ系の点検と修理を依頼してください。**

注 意

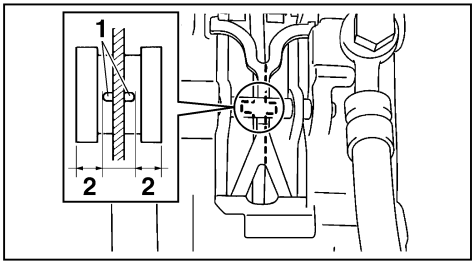
ブレーキレバーの端はハンドルバーの端より外に突出させないでください。
そうすればスノーモビルを整備のため横位置にした場合もブレーキレバーを傷めません。

発進する時は低速でブレーキをテストし、適切に作動することを確認してください。ブレーキ性能が適正でなかった場合、ブレーキの摩耗、あるいはブレーキ液の漏れを点検してください（詳細については以下の項を参照）。

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの摩耗の程度を以下の方法で点検してください。

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. シュラウドを開けます。
3. ブレーキパッドの摩耗を点検します。ブレーキパッドが摩耗限度に達している場合は、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。



1. ブレーキパッドの摩耗インジケータ
2. ブレーキパッドの摩耗限度

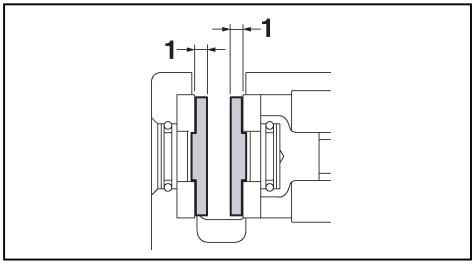
ブレーキパッドの摩耗限度：
4.7 mm

4. シュラウドを閉めます。

パーキングブレーキパッドの点検

パーキングブレーキパッドの摩耗の程度を以下の方法で点検してください。

1. シュラウドを開けます。
2. パーキングブレーキパッドの厚さを測定して、摩耗の程度を点検してください。パーキングブレーキパッドが摩耗限度に達している場合は、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。



1. パーキングブレーキパッドの摩耗限度

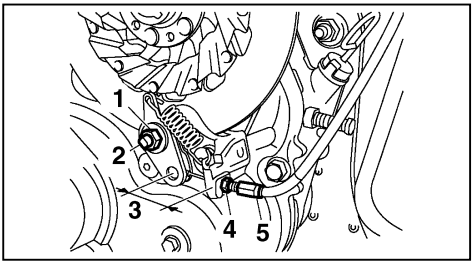
パーキングブレーキパッドの
摩耗限度：
1.2mm

3. シュラウドを閉めます。

パーキングブレーキの調整方法

パーキングブレーキパッドの摩耗が進むにつれ、正規のブレーキ性能を保つために調整が必要になります。

1. シュラウドを開けます。
2. パーキングブレーキパッド調整ボルトのロックナットと、パーキングブレーキパッド調整ボルトを緩めます。
3. パーキングブレーキケーブルのロックナットを緩めます。
4. パーキングブレーキケーブル調整ボルトを回して、ケーブルの長さを調整します。

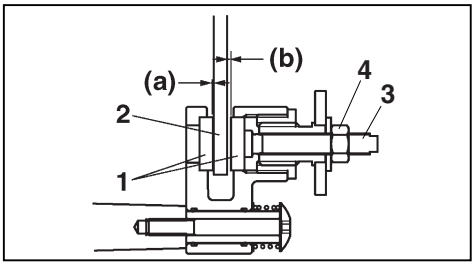


1. パーキングブレーキパッド調整ボルトのロックナット
2. パーキングブレーキパッド調整ボルト
3. パーキングブレーキケーブルの長さ
4. パーキングブレーキケーブルのロックナット
5. パーキングブレーキケーブル調整ボルト

パーキングブレーキケーブルの長さ：
43.5～46.5 mm

5. パーキングブレーキケーブルのロックナットを締め付けます。

6. パーキングブレーキパッド調整ボルトを回して、パーキングブレーキパッドとブレーキディスク間のクリアランス（隙間）を調整します。



1. パーキングブレーキパッド
2. ブレーキディスク
3. パーキングブレーキパッド調整ボルト
4. パーキングブレーキパッド調整ボルトのロックナット

パーキングブレーキパッドと
ブレーキディスク間のクリアランス、
(a)+(b):
1.5～2.0 mm

7. パーキングブレーキパッド調整ボルトのロックナットを締め付けます。
8. シュラウドを閉めます。

ブレーキ液のレベル点検

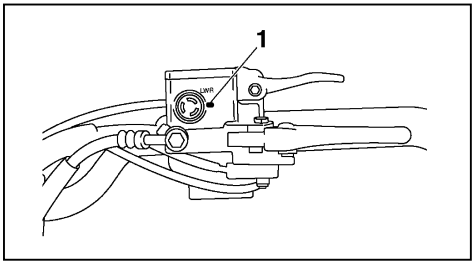
⚠ 警 告

補充する時マスターシリンダに水が入らないよう注意してください。水はブレーキ液より沸点がかなり低く、ベーパーロックを引き起こす恐れがあります。
ブレーキ液レベルが低下する場合、ヤマハ販売店にご相談ください。

注 意

ブレーキ液は塗装面やプラスチック部品を劣化させることがあります。ブレーキ液をこぼさないでください。こぼれた場合はすぐに洗浄してください。

スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
ブレーキ液がロアレベル以上であることを確認し、必要ならば補充します。



1. ロアレベル

指定ブレーキ液：
DOT 4

ブレーキ液の交換

⚠ 警 告

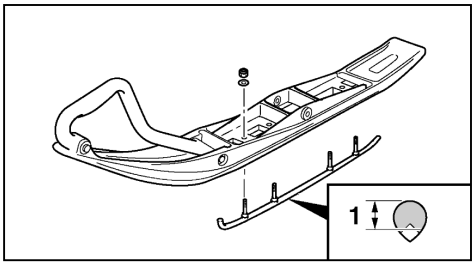
ブレーキ液と上記部品の交換は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

定期点検で下記の部品を交換する場合、あるいはこれら部品に損傷や漏れが見つかった場合、ブレーキ液の交換が必要です。

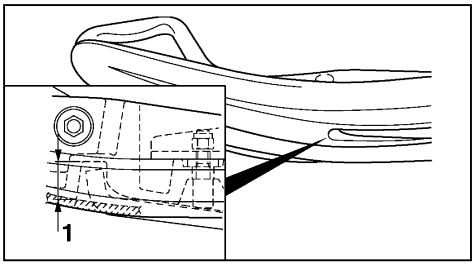
- マスターシリンダおよびキャリパーシリンダのオイルシール全部
- ブレーキホース

スキー、スキーランナー

スキーとスキーランナーに摩耗や損傷がないか点検してください。必要に応じ交換してください。



1. スキーランナーの摩耗限度



1. スキーの摩耗限度

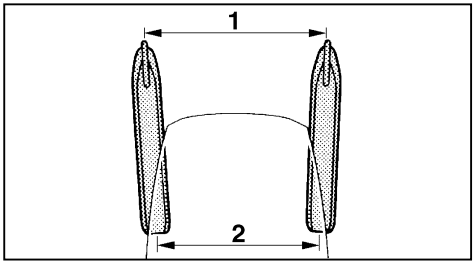
スキーランナーの摩耗限度：
8 mm
スキーの摩耗限度：
24 mm

注 意

スノーモビルに荷物を積み下ろしする時、雪が少ない場所を走行する時、あるいはコンクリート、縁石などの近くを走行する時はスキーに傷をつけないように注意してください。傷はスキーを摩耗・損傷させます。

スキーのアライメント調整

1. ハンドルバーを操作してスキーをまっすぐ前方に向けます。
2. 次の点検を行ってスキーのアライメントを調べます。
   - スキーは前方を向いているか。
   - スキーのトーアウト（距離A－距離B）が指定範囲内か。



1. 距離A
2. 距離B

スキーのトーアウト
（距離A－距離B）：
0.0～15.0 mm

要 点

各スキーの先端を完全に内側に動かした状態で、調整や測定をおこなってください。

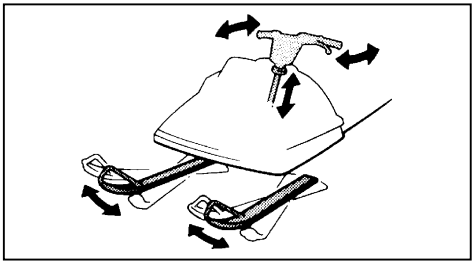
3. アライメントが指定範囲でない場合はヤマハ販売店にご相談ください。

ステアリング系

ハンドルバーに過度の遊びがないか点検してください。

ハンドルバーの点検方法

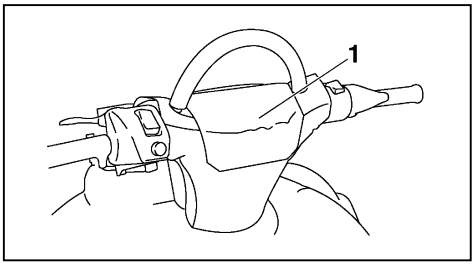
1. ハンドルバーを上下、前後に押してみます。
2. ハンドルバーを少しだけ左右に振ってみます。



過度の遊びがある場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

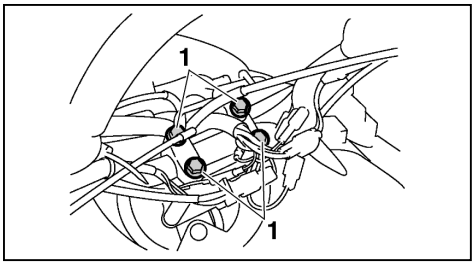
ハンドルバーの高さ調整

1. ハンドルバーカバーを外します。



1. ハンドルバーカバー

2. ハンドルバーボルトを緩めます。

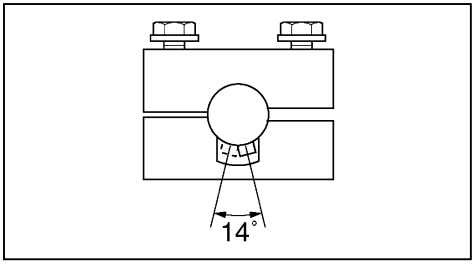


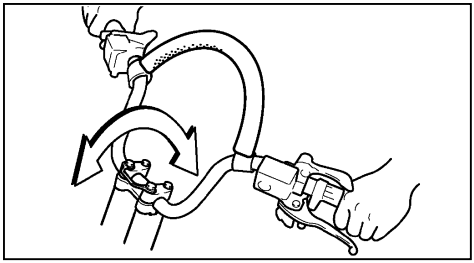
1. ハンドルバーボルト

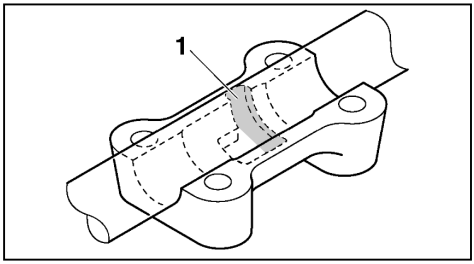
3. ハンドルバーを上下に動かし、ちょうど良い高さに調整します。

注 意

ハンドルバーの突起部分が、図に示す部分に取り付けられていないことを確認してください。





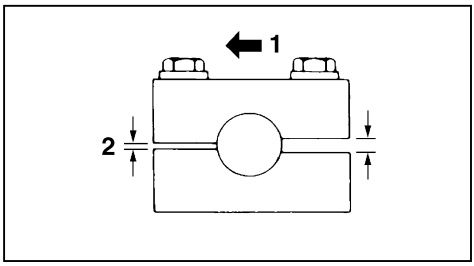


1. ハンドルバーの突起部を取り付けることができない部分

4. 前進方向のハンドルバーボルトを規定トルクで締め付けます。その後、後退方向のハンドルバーボルトを規定トルクで締め付けます。

注 意

必ずハンドルバーホルダのギャップの小さい方が、前進方向に来るようにしてください。



1. 前進方向
2. 小さなギャップ

ハンドルバーボルトの締め付けトルク：
23Nm (2.3 kgf・m)

ドライブトラック、スライドランナー

ドライブトラック

⚠警 告

破損したトラックやトラックボルト類、あるいはトラックがはね上げた小石は、運転者や同乗者に危険を及ぼす恐れがあります。次の注意事項を守ってください。

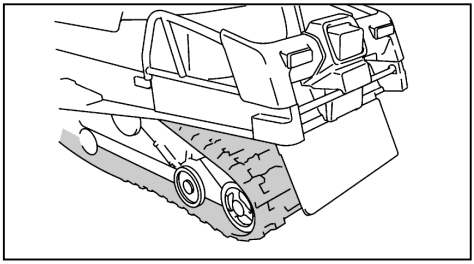
- **エンジンが動いている時は、スノーモビルの後ろにだれも立ち入らせないでください。**
- **ドライブトラックを回転させるためスノーモビルのリヤを持ち上げる場合は、適切なスタンドを使用してスノーモビルのリヤ側を支えてください。ドライブトラックを回転させる時、絶対に手でスノーモビルのリヤを持ち上げないでください。回転しているドライブトラックには絶対に人を近づけないでください。**
- **ドライブトラックの状態は頻繁に点検してください。損傷したスライドメタルは交換してください。ドライブトラックが深く損傷して中の繊維性強化材が見えるようになったら、あるいはサポートロッドが破損したら、ドライブトラックは交換してください。損傷・故障したトラックのためブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。**

ドライブトラックの点検

⚠ 警 告

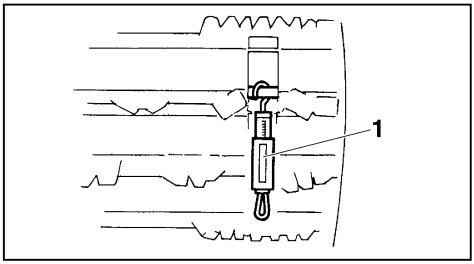
ドライブトラックに損傷または調整不良が見つかった場合、スノーモビルは運転しないでください。ドライブトラックが損傷・故障するとブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。

ドライブトラックのたわみ量の点検とドライブトラックの摩耗および損傷の有無を点検してください。
必要に応じ調整または交換してください（詳細については以下の項を参照）。



ドライブトラックのたわみ量の測定

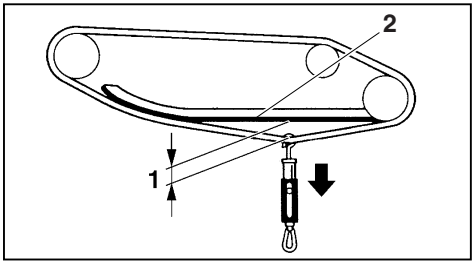
1. スノーモビルを横に寝かせます。
2. スプリングスケールでドライブトラックのたわみ量を測定します。ドライブトラックの中央を100 N（10 kg）の力で引っ張ってください。



1. スプリングスケール

要　点

スライドランナーとトラックウィンドウのエッジとの間のギャップを測定します。左右両側で測定してください。



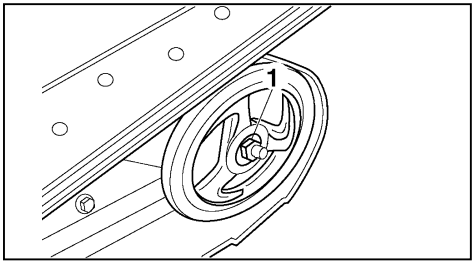
1. ドライブトラックのたわみ量
2. スライドランナー

ドライブトラックの標準たわみ量：
35.0～45.0 mm

3. たわみ量が標準範囲外の場合は、ドライブトラックの調整を行います。

ドライブトラックの調整

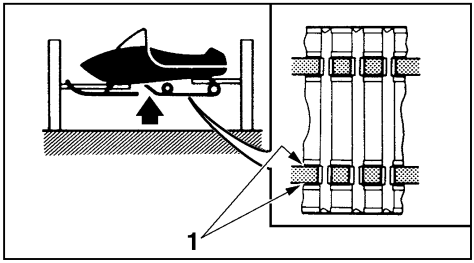
1. リヤアクスルナットを緩めます。



1. リヤアクスルナット

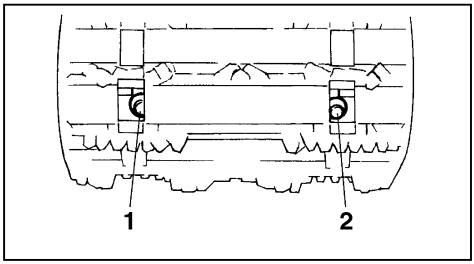
2. スノーモビルのリヤを持ち上げて適切なスタンドに載せ、ドライブトラックを地面から離します。
3. エンジンを始動し、ドライブトラックを1、2回転させます。エンジンを止めます。

4. ドライブトラックとスライドランナーとのアライメントを点検します。アライメントが異常の場合は、左右の調整ナットを回してドライブトラックのアライメントを適正にします。



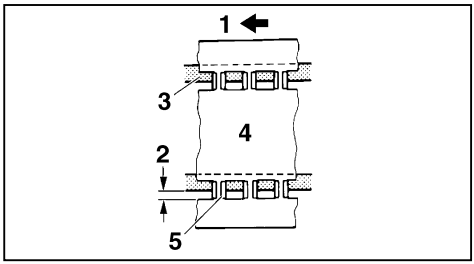
1. スライドランナー

ドライブトラックのアライメント	右に寄っている場合	左に寄っている場合
左側の調整ナット	緩める	締める
右側の調整ナット	締める	緩める



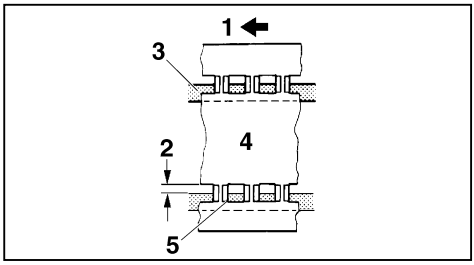
1. 左側の調整ナット
2. 右側の調整ナット

右に寄っている場合



1. 前進方向
2. ギャップ
3. スライドランナー
4. ドライブトラック
5. スライドメタル

左に寄っている場合



1. 前進方向
2. ギャップ
3. スライドランナー
4. ドライブトラック
5. スライドメタル

5. ドライブトラックのたわみ量を仕様に合わせて調整します。

注 意

左右の調整ナットは同じ量だけ回してください。

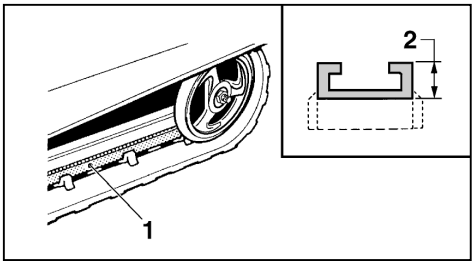
ドライブトラックのたわみ量	指定値を超過	指定値に不足
左側の調整ナット	締める	緩める
右側の調整ナット	締める	緩める

6. アライメントとたわみ量を再度点検します。必要ならば調整が適正になるまでステップ3～5を繰り返します。
7. スノーモビルを地面に下ろします。
8. リヤアクスルナットを締め付けます。

リヤアクスルナットの締め付けトルク：
80 Nm (8.0 kgf・m)

スライドランナー

スライドランナーに摩耗や損傷がないか点検してください。
スライドランナーが摩耗限度に達している場合は、交換してください。



1. スライドランナー
2 摩耗限度の高さ

スキーランナーの摩耗限度高さ：
10.0 mm

注 意

できるだけ新雪の上を走行するようにしてください。氷や圧雪の上で運転するとスライドランナーの摩耗が早くなります。

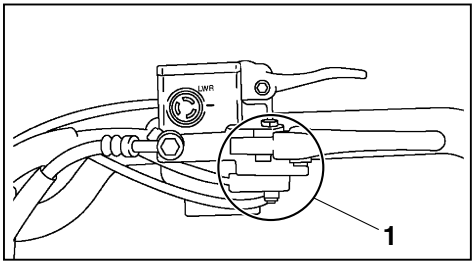
給脂

以下の各給脂（潤滑）ポイントに、指定のグリースを給脂してください。

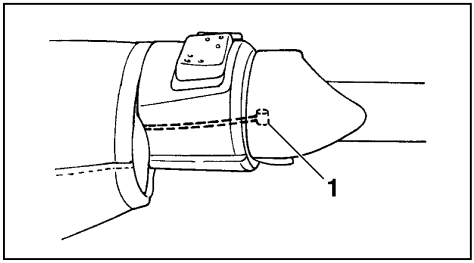
⚠警 告

ケーブルエンドだけにグリースを塗布してください。スロットルケーブル自体にはグリースを注油しないでください。ケーブルが凍結して制御不能になることがあります。

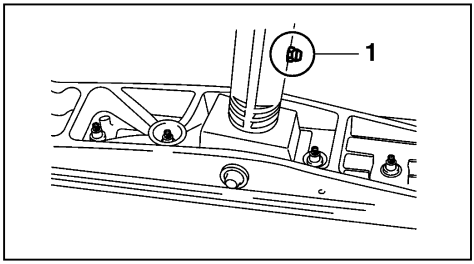
潤滑油：
低温用グリース



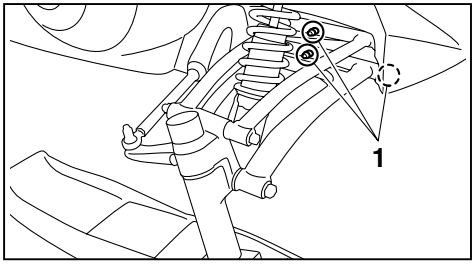
1. 給脂ポイント



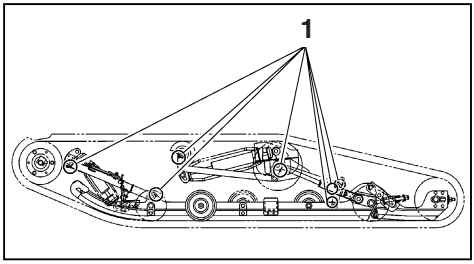
1. スロットルケーブルエンド



1. 給脂ポイント



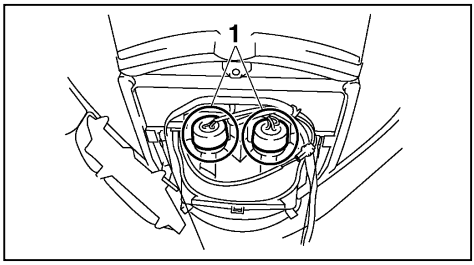
1. 給脂ポイント



1. 給脂ポイント

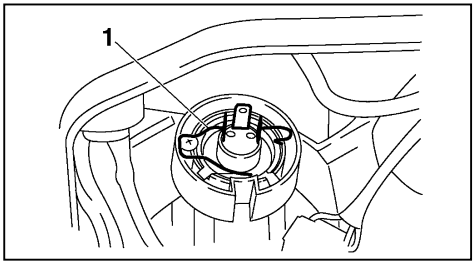
ヘッドライトバルブの交換

1. シュラウドを開きます。
2. ヘッドライトカプラーの接続を外します。
3. バルブホルダカバーを外します。



1. バルブホルダカバー

4. バルブホルダを押し込み、その後上向きに押してフックを外します。

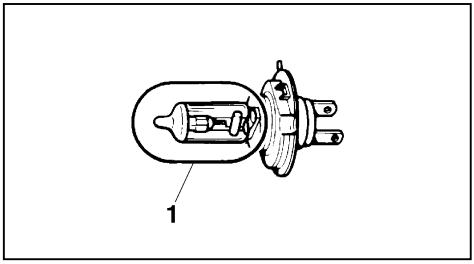


1. バルブホルダ

5. ヘッドライトバルブを外します。
6. 新しいヘッドライトバルブを取り付け、バルブホルダをヘッドライトユニットに取り付けます。

注 意

ヘッドライトバルブのガラス部分にはオイルや手を接触させないでください。ヘッドライトバルブの寿命が縮まり、照度も影響を受けます。
ガラス部分にオイルが付着した場合、アルコールまたはラッカーシンナーをつけた布できれいに清掃してください。



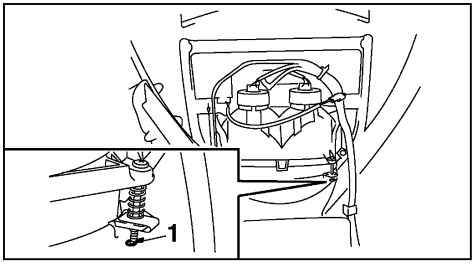
1. ハロゲンバルブのガラス部分に手を触れないこと。

バルブの種類：
ハロゲンバルブ

7. バルブホルダカバーを取り付け、ヘッドライトカプラーを接続します。
8. シュラウドを閉じます。

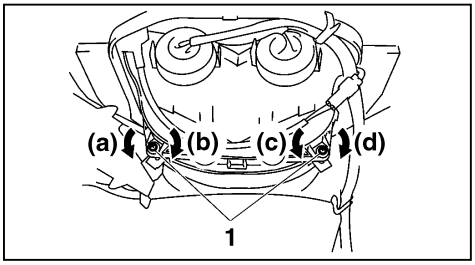
ヘッドライトビームの調整

1. シュラウドを開きます。
2. ロックピンを外します。



1. ロックピン

3. ヘッドライトビーム調整スクリュを回して、ヘッドライトビームを調整します。ヘッドライトのビームの向きは、ヘッドライトビーム調整スクリュを回す方向に応じて、以下のように移動します。
   - 方向（a）：左下の方向へ
   - 方向（b）：右上の方向へ
   - 方向（c）：右下の方向へ
   - 方向（d）：左上の方向へ



1. ヘッドライトビーム調整スクリュ

4. ロックピンを取り付け、シュラウドを閉じます。

取付金具、ボルト類

取付金具とボルト類が確実に締め付けられていることを、確認してください。
必要に応じ、適切な順序とトルクで締めてください。

バッテリ

当スノーモビルには、制御弁式（VRLA）バッテリが搭載されており、バッテリの電解液の点検や、蒸留水の補充は不要です。

⚠警 告

バッテリで行われる電気分解は有毒であり危険です。バッテリには硫酸が含まれており、重度の火傷を引き起こす恐れがあります。皮膚、目、衣服を接触させないでください。
接触した場合の処置：
- **体外：水洗いします。**
- **体内：大量の水または牛乳を飲みます。続いてマグネシアミルク、溶き卵、または植物性の油を飲みます。すぐに医師にかかってください。**
- **目：15分間水洗いし、急いで医師にかかってください。**

バッテリは引火性のガスを排出します。火花、火炎、たばこなどを近づけないでください。充電中あるいは密閉されたスペースで使用中は充分換気をおこなってください。バッテリの近くで作業する時は必ず目を保護してください。
子供を近づけないでください。

バッテリの交換

バッテリの放電が疑われる場合は、直ちにヤマハ販売店でバッテリの充電を行ってください。スノーモビルに電動式のアクセサリ類を装備している場合、バッテリの放電が起こりやすくなりますので留意してください。

⚠警 告

- **火気厳禁です。バッテリの充電中に近くでタバコを吸わないでください。バッテリから発生した水素ガスに引火し、爆発を引き起こす可能性があります。**
- **バッテリを取り外す時は、先に－（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。**
- **バッテリを取り付ける時は、先に＋（プラス）側リード線を接続し、次に－（マイナス）側リード線を接続します。**
- **充電中はバッテリを取り付けたり、取り外したりしないでください。バッテリから発生した水素ガスに引火し、爆発を引き起こす可能性があります。**
- **バッテリ端子にしっかりと接続されているか確認してください。**

注 意

- **VRLA(制御弁式）バッテリの充電には特殊な充電器（定電圧充電器）が必要です。定電圧充電器が無い場合はヤマハ販売店に充電を依頼してください。変電圧充電器を使用するとバッテリを損傷します。**
- **急速充電は行わないでください。**

ヒューズの交換

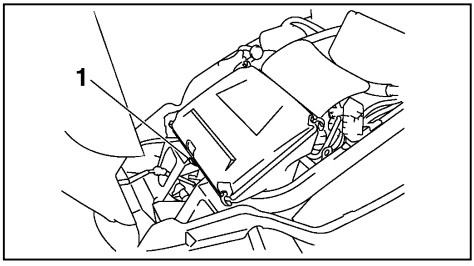
⚠警 告

必ず指定のヒューズを使ってください。指定外のヒューズを使った場合、電気系が損傷し、火災の危険が生じます。

注 意

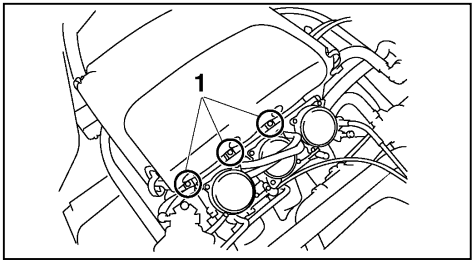
誤ってショートをさせないように、メインスイッチをOff（オフ）位置にして、バッテリの−リード線を外してください。

1. シュラウドを開きます。
2. エアフィルタケースのファスナーのフックを外します。



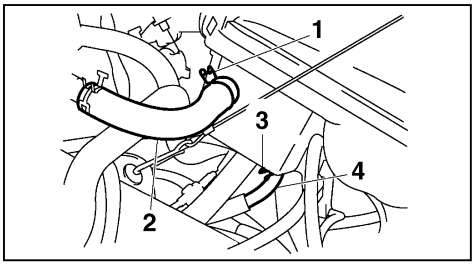
1. エアフィルタケースのファスナー

3. ジョイントクランプスクリュを緩めます。



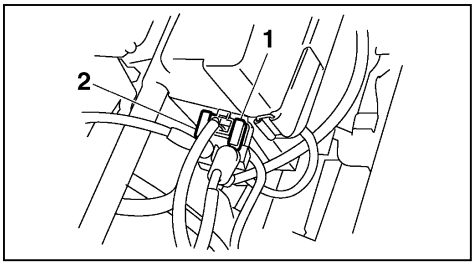
1. ジョイントクランプスクリュ

4. オイルタンクブリーザーホースクランプをエアフィルタケースからずらし、オイルタンクブリーザーホースを外します。
5. エアフィルタケースを持ち上げ、クランクケースブリーザーホースクランプ（エアフィルタケース側）を下側にスライドし、クランクケースブリーザーホースをエアフィルタケースから外し、エアフィルタケースを取り外します。

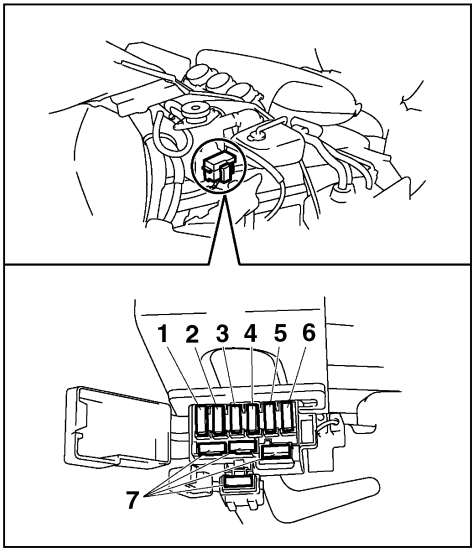


1. オイルタンクブリーザーホースクランプ
2. オイルタンクブリーザーホース
3. クランクケースブリーザーホースクランプ（エアフィルタケース側）
4. クランクケースブリーザーホース

6. バッテリの−リード線を外します。
7. 切れたヒューズを、適正アンペアのヒューズと交換します。



1. メインヒューズ
2. スペアメインヒューズ



1. “HEAD”（ヘッドライト）ヒューズ
2. “SIG”（シグナルシステム）ヒューズ
3. “DC TERM”（DCジャック）ヒューズ
4. “C/W”（キャブレタウォーマー）ヒューズ
5. “IGN”（イグニッション）ヒューズ
6. “FAN”（ラジエターファン）ヒューズ
7. スペアヒューズ

規定ヒューズ：
- メインヒューズ：
  30.0 A
- スペアメインヒューズ：
  30.0 A
- ヘッドライトヒューズ：
  20.0 A
- シグナルシステムヒューズ：
  10.0 A
- DCジャックヒューズ：
  3.0A
- キャブレタウォーマーヒューズ：
  20.0 A
- イグニッションヒューズ：
  15.0 A
- ラジエターファンヒューズ：
  15.0 A
- スペアヒューズ：
  20.0 A、15.0 A、10.0 A、
  3.0 A

8. バッテリの−リード線を接続します。
9. エアフィルタケースを、取り外しと逆の手順で取り付けます。

注 意

エアフィルタケースを取り付ける時は、ブリーザーホースを確実に接続してください。

10. シュラウドを閉じます。

要　点

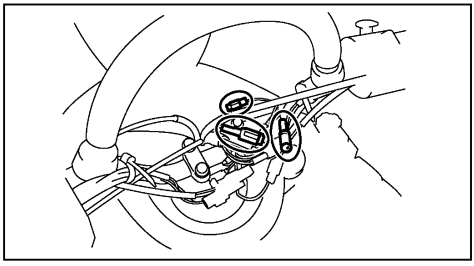
交換したヒューズが再びすぐに切れる場合は、ヤマハ販売店にスノーモビルの点検を依頼してください。

トラブルシューティング

エンジンは回るが始動しない

1. 燃料系統
   燃焼室に燃料が補給されない。
   - 燃料タンクにガソリンがない：燃料を補給する。
   - 燃料系統の詰まり：燃料系統を清掃する。
   - キャブレタの詰まり：キャブレタを清掃する。

   燃焼室に燃料が補給される。
   - エンジン室にガソリンが溢れた（チョーク過剰）：スロットルを開けてエンジンを回転させる。またはスパークプラグを拭いて乾かす。
2. 電気系統
   スパークプラグの火花が弱いまたは無い。
   - スパークプラグがカーボンで汚れている、あるいは湿っている：カーボンを除去する、またはスパークプラグを拭いて乾かす。必要に応じ交換する。
     点火系統の故障：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
   - T.O.R.S.系の不具合：スロットルスイッチコネクタを外し、ワイヤーハーネスコネクタを一緒に接続してT.O.R.S.をバイパスさせる。



⚠ 警 告

- **T.O.R.S.をバイパスする前に、必ずスロットルを全閉位置に確実に戻しておいてください。**
- **T.O.R.S.は重要安全部品です。不具合があったらすぐにスノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んで修理を依頼してください。**

3. 圧縮
   不充分な場合
   - シリンダヘッドナットの緩み：ナットを正しく締め付ける。
   - ガスケットの摩耗または損傷：ガスケットを交換する。
   - ピストンとシリンダの摩耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

バッテリ上がり

バッテリが放電した場合は、完全充電した別の12Vのバッテリとジャンパケーブルを使用してエンジンを始動できます。スノーモビルのジャンプスタート用に、2本の接続用リード線が用意されています。ラバー製のエンジンマウントを使用しているため、スノーモビルのフレームは、エンジンのジャンプスタート時のアース用には使えません。

⚠ 警 告

- **接続するリード線の端子にのみ、ジャンパケーブルを接続してください。スノーモビルのフレームや、他のワイヤー/リード線には接続しないでください。**
- **ジャンパケーブルを接続する時は、2本のジャンパケーブル、2つの接続リード線の端子を接触させたり、スノーモビルのフレームや金属部分に触れさせないでください。万一触れた場合、電気系統が損傷したり、火災が発生する恐れがあります。**

- **リード線のカバーを完全に引き出して、端子を完全に覆うようにしてください。端子が露出していると、スノーモビルのフレームや金属部分と接触して、電気系統の損傷や火災の原因になる恐れがあります。**

注 意

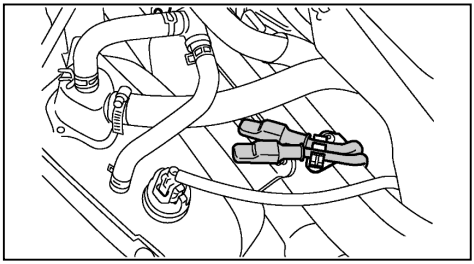
接続用リード線は、スノーモビルをジャンプスタートさせる場合にのみ、使用してください。接続用リード線を他の目的に使用しないでください。

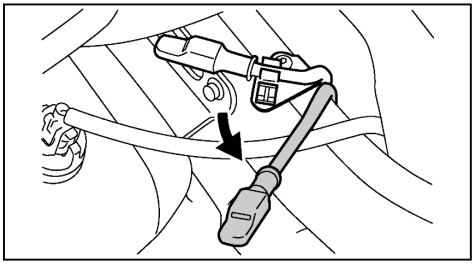
完全充電した12Vバッテリを使用してエンジンを始動する方法

1. パーキングブレーキをかけ、メインスイッチをOff（オフ）位置にします。
2. シュラウドを開きます。
3. 赤色（＋側）の接続用リード線をリードホルダから外し、黒色（－側）の接続用リード線から離します。

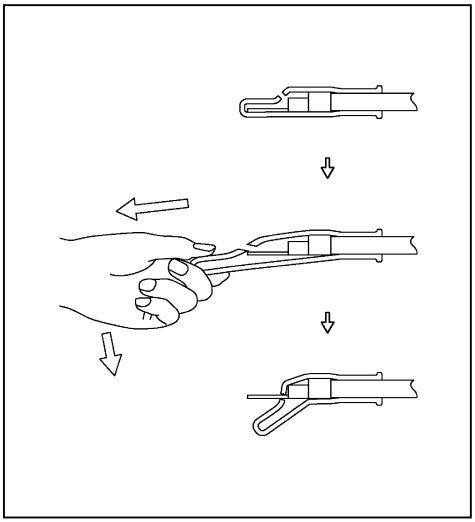
注 意

赤色（＋側）のジャンパケーブルを、赤色（＋側）の接続用リード線に接続し、黒色（－側）のジャンパケーブルを黒色（－側）の接続用リード線に接続してください。絶対に、逆に接続しないでください。

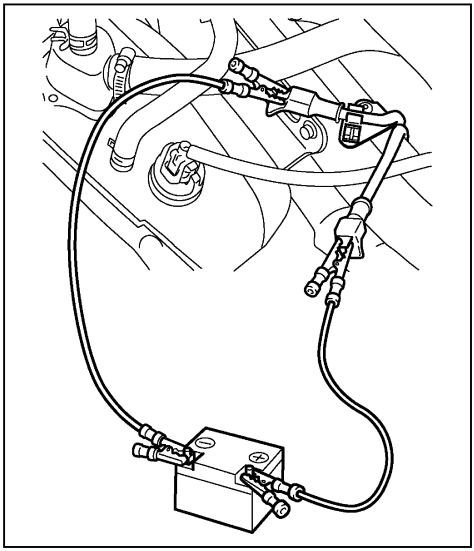




4. 赤色（＋側）の接続用リード線のカバーを引っ張って端子を（カバーのスリット部から）露出させ、赤色（＋側）のジャンパケーブルを赤色（＋側）の接続用リード線に接続します。



5. 赤色（＋側）のジャンパケーブルのもう一方の先端を、完全充電した12Vバッテリのプラス（＋）端子に接続します。
6. 黒色（－側）のジャンパケーブルを、完全充電した12Vバッテリのマイナス（－）端子に接続します。
7. 黒色（－側）の接続用リード線のカバーを引っ張って端子を（カバーのスリット部から）露出させ、黒色（－側）のジャンパケーブルを黒色（－側）の接続用リード線に接続します。



8. エンジンを始動します。
9. 黒色（－側）のジャンパケーブルを、黒色（－側）の接続用リード線から外し、リード線の端子をカバーで完全に覆います。
10. 黒色（－側）のジャンパケーブルを、完全充電した12Vバッテリのマイナス（－）端子から外します。
11. 赤色（＋側）のジャンパケーブルを、完全充電した12Vバッテリのプラス（＋）端子から外します。
12. 赤色（＋側）のジャンパケーブルを、赤色（＋側）の接続用リード線から外し、リード線の端子をカバーで完全に覆います。
13. 赤色（＋側）の接続用リード線を、リードホルダに取り付けます。
14. シュラウドを閉じます。

要　点

赤色（＋側）の接続用リード線と、黒色（－側）の接続用リード線は、リードホルダに確実に固定してください。

電動スタータが作動しない、または回転が遅い。

- エンジン停止スイッチが押されている：スイッチを引き出す。
- ワイヤー接続の不具合：接続を点検、またはヤマハ販売店に点検を依頼する。
- バッテリ上がり：バッテリを充電するか、上記の「バッテリ上がり」の項を参照。
- エンジンの焼きつき：潤滑不足、不適切な燃料、またはエア漏れのため焼きつきが発生。ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- スノーモビルの輸送中シリンダに燃料が溢れたため「ハイドロロック」が発生。スパークプラグを抜き、点火をオフにしてエンジンを何回か回転させ、余分な燃料を吐き出させる。ヤマハ販売店に点検を依頼する。

エンジン出力が低い

- クーラント温度低下インジケータが点滅している：エンジンを暖機運転する。
- スパークプラグの不具合：スパークプラグを清掃または交換する。
- 標高または温度にキャブレタジェットが不適合：ヤマハ販売店に点検を依頼。
- 燃料フローの異常：上記の「エンジンは回るが始動しない－燃料系統」の項を参照。
- 標高または諸条件にVベルトクラッチの設定が不適切。ヤマハ販売店に点検を依頼する。

エンジンがいつもバックファイヤを起こす、または失火する
- スパークプラグの不具合：スパークプラグを交換する。
- 燃料系統の詰まり：上記の「エンジンは回るが始動しない－燃料系統」の項を参照。
- T.O.R.S.系の不具合：上記の「エンジンは回るが始動しない－電気系統」の項を参照。

エンジンのオーバーヒート
- クーラント不足：クーラントを補充する。
- 冷却システムへのエア混入：冷却システムのエア抜きをする、またはヤマハ販売店に点検を依頼する。
- クーラントの漏れ：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

スノーモビルが動かない
- Vベルトクラッチの不具合：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- ドライブトラックが動かない：ドライブトラックの異物噛み込み、または潤滑不足のためスライドランナーがスライドメタルに溶着。
- ドライブチェーンがきつい、緩い、または破損：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

Vベルトのねじれ
- Vベルトの不良：良品Vベルトと交換する。
- Vベルトクラッチのオフセットが不適正：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- エンジンマウントの緩み、破損：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

Vベルトの滑り、焼け
- Vベルトまたはプライマリー/セカンダリーシーブアセンブリにオイルまたは泥が付着：清掃する。
- ドライブラインに問題あり：上記の「Vベルトのねじれ」を参照。

シフトアップ、シフトダウンがうまく行かない、またはシフトした時ショックがある。
- Vベルトの摩耗または損傷：Vベルトを交換する、またはヤマハ販売店に点検を依頼する。
- 標高または諸条件にVベルトクラッチの設定が不適切：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- プライマリーシーブアセンブリの摩耗または固着：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- セカンダリーシーブアセンブリの摩耗または固着：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

ドライブチェーンとスプロケットのノイズまたは大きな振動
- Vベルトクラッチ部品の破損：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- ベアリングの摩耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- フラットスポット付きVベルトの摩耗または損傷：交換する。
- アイドラーホイールまたはシャフトの摩耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- ドライブトラックの摩耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

保管方法

スノーモビルを長期間保管する時は、劣化防止のため何らかの予防措置が必要です。

エンジン

シリンダやピストンリングなどを腐食から守るために、以下の手順を実行してください。

1. スパークプラグキャップとスパークプラグを外します。
2. 小さなスプーン1杯程度のエンジンオイルを、スパークプラグのそれぞれのボア（孔）に注ぎます。
3. 各スパークプラグにスパークプラグキャップを付け、各スパークプラグをシリンダヘッドに置き、側方電極をアースさせます。（次の手順中、スパークプラグで放電されます）。
4. スタータを使って、エンジンを数回始動します。（シリンダ壁にオイルを付着させます）。

⚠ 警 告

火花によるケガや損傷を防ぐ為に、エンジンをクランキング中はスパークプラグの側方電極を必ずシリンダヘッド部にアースしてください。

5. 各スパークプラグからスパークプラグキャップを外し、スパークプラグとスパークプラグキャップを取り付けます。

シャーシ

1. 指定給脂箇所すべてにグリースを給脂します。
2. ドライブトラックを緩め、シャーシをブロックの上に載せ、トラックを地上から離します。
3. スノーモビルの外装を清掃し、防錆剤を塗布します。
4. 乾燥し通気がよい場所に、カバーをかけてスノーモビルを保管してください。
5. 保管、輸送する時、スノーモビルを斜めにしないでください。

注 意

- **誤ったお手入れ方法はシュラウド、カバー、ウインドシールド、ヘッドライト、メーター等のプラスチック部にダメージを与えます。**
  柔らかい布または中性洗剤を含んだスポンジで汚れをとってください。
- **プラスチックの部分には強い薬品を使わないでください。研磨剤、溶剤やシンナー、ガソリン、錆取り、ブレーキ液、不凍液、電解液がついた布やスポンジで拭かないでください。**
- **高圧洗車やスチーム洗車は水入りの原因となり、以下の部位にダメージを与えます：シール部（スライドレールサスペンション、フロントサスペンション、ブレーキ）、電装系統（カプラー、コネクター、計器、スイッチ、ライト）、排気口等。**
- **ウインドシールドのあるスノーモビルの場合：強力な洗剤や固いスポンジでのお手入れは、傷がつくので避けてください。プラスチッククリーナーの中にも傷がつくものがあります。小さな見えにくい部分でまず試してください。ウインドシールドに傷がついた場合は、洗車後に質のよいプラスチック用のワックスを使用してください。**

バッテリ

スノーモビルからバッテリを取り外してください。バッテリは、0℃以上で、30℃未満の乾燥した涼しい場所に保管してください。バッテリの状態は1ヵ月に1回点検し、必要に応じ充電してください。

注 意

バッテリは常に充電状態を保つようにしてください。放電した状態でバッテリを保管すると、バッテリに永続的な損傷を及ぼす可能性があります。

要　点

バッテリを取り付ける前に、ヤマハ販売店に点検とフル充電を依頼してください。

仕様諸元

	販売名称		RS Viking Professional
寸法	全長		3270mm
	全巾		1200mm
	全高		1380mm
	乾燥重量		356kg
原動機	エンジン種類		4サイクル4バルブ
	冷却方式		水冷
	気筒数・配列		3気筒、並列
	総排気量		973cm^3
	内径×行程		79.0mm×66.2mm
	アイドリング回転数		1300～1500r/min
	圧縮比		11.3 : 1
	最高出力時回転数		8500r/min
	最大トルク時回転数		7000r/min
	始動方式		セルスタータ
	点火方式		デジタルT.C.I
	潤滑方式		ドライサンプ
	キャブレタ方式		CVK40×3
	スパークプラグ型式		CR8E（NGK）
スイッチ	キルスイッチ		プッシュ・プル式
車体	フレーム		モノコック（アルミ・スチール）
	カウル		ポリプロピレン
	ラゲージボックス		シート下
	パッセンジャーグリップ		有
	燃料タンク容量		40.0L
	オイルタンク容量		2.5L
動力伝達装置	1次減速		Vベルト式
	クラッチ型式		自動遠心クラッチ
	変速機型式		Vベルト自動変速機
走行・懸架装置	走行装置	前	スキー×2
		後	トラック（内ラグ）
	トラック材質		補強入りラバー
	トラック駆動		複列駆動
	トラックゆるみ		35～45mm
	懸架方式	前	ダブルウィシュボーン
		後	スライドレールサスペンション
ブレーキ方式			ベンチレーテッド油圧式ディスクブレーキ
燈火	ヘッドライト		12V,60/55W×2
			High/Low ビーム付ハロゲンバルブ
	ストップ／テールランプ		12V,21/5W×2
	バッテリ型式		YTX20L-BS
	バッテリ容量		12V,18AH
乗車定員			2名

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました製品やサービスに関してのご意見はご購入いただいたヤマハ販売店または下記の<ご相談窓口>へお気軽にお申し付けください。

名　称	電話番号	郵便番号	所　在　地
■本社			
ヤマハ発動機販売（株）営業統括部			
営業部冬期商品販売課	☎03(5442)8059	〒108-0073	東京都港区三田3丁目10-1 アーバンネット三田ビル8F
■北海道			
ヤマハ発動機販売（株）北海道営業所			
	☎011(222)6151	〒060-0031	北海道札幌市中央区北1条東7丁目10-35
サービス課	☎011(222)6151	〒060-0031	北海道札幌市中央区北1条東7丁目10-35
■東北			
ヤマハ発動機販売（株）東北営業所			
	☎022(772)7071	〒981-3112	宮城県仙台市泉区八乙女1丁目1-10
サービス課	☎022(772)7083	〒981-3112	宮城県仙台市泉区八乙女1丁目1-10
■関東			
ヤマハ発動機販売（株）			
サービスセンター関東	☎048(449)6232	〒335-0031	埼玉県戸田市美女木1054番
■中部			
ヤマハ発動機販売（株）中部営業所			
サービス課	☎052(939)1785	〒461-0023	愛知県名古屋市東区徳川町1013
■西日本			
ヤマハ発動機販売（株）西日本営業所			
サービスセンター西日本	☎06(6397)6171	〒532-0001	大阪府大阪市淀川区十八条2丁目4-42
■九州			
ヤマハ発動機販売（株）九州営業所			
サービス課	☎092(411)3785	〒816-0097	福岡県福岡市博多区半道橋2丁目7-52

【ご注意】

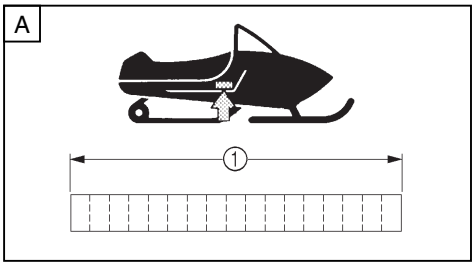
- 土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。
  その他夏期等休業させていただく場合があります。
- 区画整理、電話局の親増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

識別番号の記録

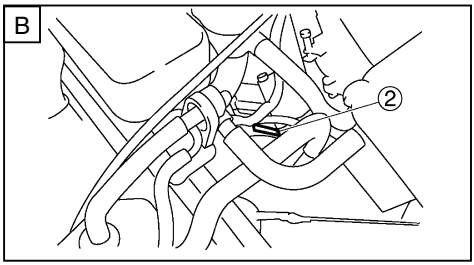
ヤマハ販売店にスペアパーツを注文するときのために、車体番号、エンジン番号を下の空欄に記入しておいてください。

A. 車体番号：

B. エンジン番号



① **車体番号**はスノーモビルの車体に17桁の数字で刻印されています。（図 A.を参照）



② **エンジン番号**は図の位置に刻印されています。（図 B.を参照）

スノーモビルが盗難にあったときのためにこの取扱説明書とは別に番号を控えておいてください。

保証

問題の原因特定やその対処方法について疑問がある場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。認められていない修理、場当たり的な修理、または間違った修理をおこなった場合は保証が無効になりますので、保証中でも特に注意が必要です。ヤマハ販売店にはスノーモビルを正しく修理するために必要な特殊ツール、専門の技術、および予備部品が備わっています。仕様や保守手順に疑問があれば、常にヤマハ販売店にご相談ください。場合によっては、取扱説明書の印刷ミスや製造変更が原因で本書の説明が正しくないことがあります。当モデルに完全に精通するまでは、保守作業を始める前にヤマハ販売店にご相談ください。詳しい保守作業や点検のための情報をご希望の場合、ヤマハ販売店からサービスマニュアルを購入することもできます。

索引（さくいん）

あ行

⚠安全にご使用するにあたって 6
一般的な点検と潤滑チャート.....43
運転中は.....6
運転の前に.....6
エアフィルタの点検 48
エンジンオイルと
　オイルフィルタカートリッジ 50
エンジン停止.....41
エンジン停止スイッチ 17
エンジンのアイドリング回転数の
　調整.....46
エンジンの始動.....32
オイルレベル警告灯 15
お客様ご相談窓口のご案内.....84

か行

各部の名称.....8
風通しの悪い場所でエンジンを
　始動しない.....7
キャブレタ.....49
キャブレタクーラント
　シャットオフレバー.....21
給脂 69
クーラント温度警告灯 16
クーラント温度低下インジケータ 13
グリップ/サムウォーマー調整
　スイッチ.....17
けん引用連結装置のブラケット.....25
コントロール機能（各部の機能）.....10

さ行

サスペンション 27
識別番号の記録 86
自己診断装置.....16
始動の前に.....6
シフトレバー.....20
収納エリア.....23
重要ラベル.....4
シュラウドラッチ 20
仕様諸元.....82
使用前の点検.....30
使用前の点検リスト 30
スキー、スキーランナー.....64
スタータ（チョーク）レバー.....10
ステアリング系.....65
ストラップ.....39
スノーモビルに乗る 34
スパークプラグの点検 45
スピードメータユニット.....12
スロットルオーバーライドシステム
　（T.O.R.S.）.....11
スロットルオーバーライドシステム
　（T.O.R.S.）の点検 47
スロットルケーブルの遊びの調整 47
スロットルレバー 11
走行 40
操作方法.....32

た行

ツールキット.....45
定期点検.....42
ドライブガード.....20

ドライブチェーンハウジング.....60
ドライブトラック、
　スライドランナー.....66
ドライブトラックを
　長持ちさせるには.....39
トラブルシューティング.....76
取付金具、ボルト類.....72

な行
慣らし運転.....33
燃料.....26
燃料計とグリップ/サムウォーマー
　レベルインジケータ.....13

は行
パーキングブレーキレバー.....19
排ガス制御装置の定期点検
　チャート.....42
ハイビームインジケータ.....12
パッセンジャグリップウォーマー
　スイッチ.....22
バッテリ.....72
バルブクリアランス.....49
ヒューズの交換.....73
標高の高い場所で走行する場合の
　設定.....49
フューエルレベル警告灯.....15
ブレーキ、パーキングブレーキ.....61
ブレーキレバー.....19
ヘッドライトバルブの交換.....70
ヘッドライトビームスイッチ.....17
ヘッドライトビームの調整.....71
保管方法.....80
保守と保管.....7
保証.....87

ま行
メインスイッチ.....10

や行
ヤマハ純正部品.....7
輸送.....41

ら行
ルーバー.....22
冷却システム.....55

アルファベット
DCジャック.....18
Vベルト.....57
Vベルトホルダ.....21

★ヘルメットを必ずかぶりましょう。
★オフロードモデルは公道を走れません。
★点検・整備を忘れずに。
★安全のため改造はやめましょう。
★安全運転講習を受けましょう。
★天気予報を確認して、無理のないツアー計画を。
★ツアー時は安全備品や予備燃料を忘れずに。
★マナーを守って走行しましょう。
★動物や植物など自然への思いやりを。
★スノーモビル保険に加入しましょう。
★オフロードモデルは運輸省の認定を受けていませんので、
ナンバープレートを取得できません。
★オフロードモデルの公道走行は、道路交通法及び
道路車両法の違反となります。

YAMAHA

QQS-CLT-852-8GS

2009.09-0.1×1

再生紙を使用しています。